

「国立市地球温暖化対策実行計画（素案）」に対するパブリックコメントの実施結果

1. パブリックコメントの概要

募集期間：令和5年12月1日（金）～令和5年12月21日（木）17時15分（必着）

提出方法：郵送・電子メール・ファックス・意見箱への投函

※回収箱設置箇所

市役所（情報公開コーナー）、公民館、中央図書館、北市民プラザ、南市民プラザ、国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ
2. 結果：意見提出者数 50人（75件）

3. いただいたご意見の内容及び市の考え方 以下のとおり
- ※青色

黄色

白色
- 市民の方

在学・在勤の方

市外の方

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 市の考え方                                                                                                                                                                 | 意見発出者 |
|----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 1  | 2章 | p37<br>市の追加的施策として、断熱等級5の推進を掲げていますが、東京大学の前教授が指摘しているように、断熱等級5では等級4と比較しても断熱効果が大きく上がる訳ではありません。効果的な断熱の効果が見込めるのは断熱等級6以上だと前教授は指摘しています。しかも断熱5から断熱6に格上げするのは断熱材を変えるだけなのでそれほど大きくコストが変わるわけではありません。建築物は一度立ててしまえば数十年も残ってしまいます。その数十年間、断熱性能の差の分だけ省エネ効果を得る機会を失ってしまうことになります。以上のことから、市の追加的政策として断熱等級6を誘導・市から進めてください。                                                                                                                                                                                                                     | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                                             | 市外    |
| 2  | 3章 | p54<br>再生可能エネルギーの最大限活用について以下を考えます。<br>① 太陽光発電でできた電力を大規模蓄電システムで夜間にも使えるようにする。<br>現在いろいろな技術が開発されているようですがNAS電池などが候補でしょうか。太陽光発電で公共の建物の電力を賄う際に重要なことは発電した電力を蓄電することがどうしても必要になると思います。私は10月から太陽光発電を開始し蓄電池も設置しましたので、昼間だけでなく夜間の電力も太陽光発電した電力で賄うことができています。自家用車もPHVで通常走るの一日70キロ未満ですから太陽光電力で発電した電気を充電し、遠距離運転をしなければガソリンを全く使いません。またエアコンも太陽光発電で賄っていますので、化石燃料を使うのはほぼほぼ生活は台所周りのガス、床暖房のガス、お風呂のガスのみです。国立市の公用車や業務用車両も太陽光充電で走るようにして欲しいです。<br>② EVを国立市内でたくさん使ってもらうためには充電スタンドを民間に補助金を出してたくさん作ってもらう必要があると思います。太陽光発電施設のある公共施設にはEV充電施設を併設すべきと考えます。 | 公共建築物に太陽光発電設備を設置する際には、日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量、費用対効果等を踏まえて検討してまいります。<br>電気自動車の充電設備については、国や都の補助制度の周知を中心とした取組により設置を推進してまいります。なお、市役所本庁舎には電気自動車用急速充電器を設置しております。             | 市民    |
| 3  | 全体 | 国立市の2030年CO2削減目標62%、素晴らしいと思います！<br>住宅・事業所の省エネルギー化の促進施策について、2030年にはさらに省エネ基準の水準が引き上げられ、断熱等級5が最低等級になるとも見込まれています。目標は等級6に誘導することが望ましいと思います。地球温暖化対策において、市民や事業者の理解・協力を得るのは簡単ではないと思いますがぜひぜひ他自治体のモデルになるよう、頑張ってください。国立市民ではないですが、必ず実現できると、応援しています。私の住む場所でも頑張ります。                                                                                                                                                                                                                                                                 | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。<br>計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。 | 市外    |
| 4  | 全体 | 二酸化炭素削減目標、62%、素晴らしいです！ぜひ実現にむけて頑張ってください！省エネ設備も応援しています！！                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                              | 市外    |
| 5  | 全体 | 賛同します。非常に重大です。頑張って下さい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                              | 市外    |
| 6  | 3章 | 公営住宅の断熱改修、そして新規の建設時には高い断熱等級（6以上）で建設するようにしてください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 国立市は市営住宅を持っておりませんが、ご意見につきましては、今後の施策の参考にさせていただきます。                                                                                                                     | 市外    |
| 7  | 3章 | p55<br>国立市の脱炭素政策は省エネ対策が重要です。ですので既存の公共建築物の大規模改修や、空調設備や給湯設備等を更新するときには、「省エネ性能が高い設備」や「高効率な機器等」ではなく、「省エネトップクラス」の設備や機器を導入してください。そうすれば、環境政策課以外の部署もこの指針に基づいて更新時のトップクラスの機器を導入していくことになります。そういった市内や市役所他部署の方のための計画になると思うので、脱炭素のために明確な指針を示してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 既存設備の更新の際には、環境性能に加え、それぞれの現場ごとに求められる性能を満たす機器であることや費用対効果の高い機器であることも求められます。そこで、既存設備の更新の際には、費用対効果等を考慮しつつ、可能な限り省エネ性能の高い設備の導入を進める旨に記述を修正しました。                               | 市外    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 市の考え方                                                                                                                                                              | 意見発出者 |
|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 8  | 全体 | 2030年CO2削減目標 62%に設定してください希望を感じます。実現させましょう！私も一緒にできることをやっていきます！                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                           | 市民    |
| 9  | 2章 | 素案P33にて、温室効果ガス排出量について、2013年度比286から2030年114へ-60.3%削減することとされています。これは、P35からの基本施策ごとに掲げる成果目標を全て達成すれば、-60.3%も達成されるということでしょうか。そのように考える計算根拠をご開示ください。もしそのような考え方でなければ、この成果指標を達成することで、何が達成されるのかを教えてください。                                                                                                                                                                               | 本計画の削減目標は国の温対計画に基づく省エネ策、市民アンケートによる意向を踏まえた再生可能エネルギー設備の設置促進等により算出しております。ご意見を踏まえ、P30に「国の温対計画に位置付けられた省エネの内訳」を追加しました。また、成果目標（計画案の段階では進捗管理指標に修正）には主要施策のうち、主な指標を掲載しております。 | 在学・在勤 |
| 10 | 2章 | 素案P35～48に書かれていることを全てやれば、2030年 -60.3%が達成されるという考え方でよろしいでしょうか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 発電における電源構成や電力会社の排出係数などの外部要因の影響も受けるものの、素案p35～p48の主要施策を進めることで、計画で掲げた目標の達成に繋がると考えております。                                                                               | 在学・在勤 |
| 11 | 2章 | 素案P33にて、エネルギー起源CO2排出量は、各部門別に2030年度排出量が算出されています。産業であれば、2013⇒2030で6.2の削減、家庭は74.3の削減の目途を立てていますが、これは何をどれだけすることでこれだけの削減ができると言えるのでしょうか。その根拠が示されている資料をご開示ください。                                                                                                                                                                                                                     | 素案P33では、2030年度BAU値から2030年度までの削減量を控除し、2030年度の排出量を算出しております。2030年度までの部門別削減量については、素案P32にまとめてあります。ご意見を踏まえ、P30に「国の温対計画に位置付けられた省エネの内訳」を追加しました。                            | 在学・在勤 |
| 12 | 2章 | p 34図表の主要施策にて各部門に関連する施策として書かれていますが、ここで例えば基本施策1の、①住宅・事業所の省エネルギー化の促進では、産業にて3千t、業務にて10千t、家庭にて20千tを削減するといったような見込みが立てられているのでしょうか。施策ごとにそのように考えられており、それによって各施策実施によるCO2削減の合計が、2013⇒2030の101千t分と考えていいでしょうか。その計算資料がありましたらご開示ください。そのような計算でなければ、どのようにして、各部門のCO2削減目標を達成する見込みなのかを教えてください。                                                                                                 | 素案P34基本施策1・2に対応する温室効果ガス削減量は、素案P32①・②に記載しております。ご意見を踏まえ、P30に「国の温対計画に位置付けられた省エネの内訳」を追加しました。                                                                           | 在学・在勤 |
| 13 | 5章 | P67の進捗管理にて、「各施策の指標は、～定期的なモニタリングを行います」とありますが、施策をどれだけやったことで、どれだけのCO2が削減されたかはどのように計算するのでしょうか。CO2削減量が計算できなければ、施策に対していくらの予算を使うのか考えられないと思います。                                                                                                                                                                                                                                     | 国立市域全体の温室効果ガス排出量は、オール東京62市区町村共同事業みどり東京・温暖化防止プロジェクト「多摩地域の温室効果ガス排出量」のデータを活用して把握します。温暖化対策のための各施策の進捗管理指標は、各種統計データや、市民アンケート等を活用して、定期的なモニタリングを行います。                      | 在学・在勤 |
| 14 | 全体 | 2030年までに、どの施策をどれだけのお金をかけてやればよいかが、この素案には書かれていません。短い期間の中で、書かれてある施策を、各年度に何をどのように計画しているのかをご開示ください。各年度で見込んでいる予算もご開示ください。                                                                                                                                                                                                                                                         | 計画の進捗を管理するなかで、課題を洗い出し、必要な取組に優先順位を付けて予算化してまいります。                                                                                                                    | 在学・在勤 |
| 15 | 全体 | 国立市地球温暖化対策実行計画素案を読みました。2022年3月に出た陳情の録画も視聴しました。こどもたちの未来を明るくしたいと、私も考えます。2030年のCO2排出量を62%削減、温室効果ガス排出量を60%以上削減という高い削減目標計画案に賛同いたします。                                                                                                                                                                                                                                             | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                           | 市民    |
| 16 | 全体 | 温室効果ガス削減目標62%は素晴らしいと思います。頑張ってください。他の自治体もこれに続いていければと思います。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                           | 市外    |
| 17 | 2章 | 「緑地の保全及び緑化の推進」（p.47）に関連して、意見申し述べさせていただきます。自然環境の保全を重視されたいと強く願います。城山、ママ下、矢川、多摩川をはじめ、豊かな自然は国立の宝です。とりわけ矢川の環境への影響が懸念される道路計画については、国立市として都に再考を促し、自然環境を死守してほしい。また、農地の保全も課題です。地産地消の拡大は、CO2排出削減につながります。農家の後継者不足への対応が必要ではないでしょうか。たとえば、オーナー制度の推進（市の登録事業者を市ホームページで紹介など）や、農業を始めたい人と農地を貸し出したい人とをマッチングするシステムの構築等を通じて、「くにたち野菜」の普及拡大に努められたい。そのことは、市民が環境を意識するきっかけとなり、環境教育としての意義も期待できるように思われます。 | いただいたご意見は今後の施策の参考にさせていただきます。緑地や農地の保全を推進しながら、ゼロカーボンシティの実現を目指した取組を進めてまいります。                                                                                          | 市民    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                             | 市の考え方                                                                                                                                                | 意見発出者 |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 18 | 2章 | P33 温室効果ガス排出量を 2030 年度までに、2013 年度比で 60%以上削減国立市は高い目標を設定いただきありがとうございます。<br>国立市の計画を拝見すると、温室効果ガス62%以上の削減が可能です。いま一步目標設定をお願いします<br>国立市は日本一の削減率を掲げていただきたいです。よろしくお願いします                                   | この間、市民・事業者のみなさまからお寄せいただいたご意見を基に積み上げた削減目標値であるため、目標値については現状の通りとさせていただきます。その上で、計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。 | 市外    |
| 19 | 2章 | 33ページ<br>「エネルギー起源CO2排出量は2030年度までに、2013年度比で62%以上削減」となっており、すごいと思いました。<br>この目標を設定するだけでも、東京全体、日本全体により影響を与えることができると思います。応援しています。                                                                       | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                             | 市外    |
| 20 | 2章 | P33 エネルギー起源 CO2 排出量は 2030 年度までに、2013 年度比で 62%以上削減国立市は高い目標を設定いただきありがとうございます。<br>国立市の計画を拝見すると、エネルギー起源CO2 65%以上の削減が可能です。いま一步目標設定をお願いします。<br>国立市は日本一の削減率を掲げていただきたいです。よろしくお願いします                       | この間、市民・事業者のみなさまからお寄せいただいたご意見を基に積み上げた削減目標値であるため、目標値については現状の通りとさせていただきます。その上で、計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。 | 市外    |
| 21 | 2章 | P33<br>「温室効果ガス60%以上削減とCO2を62%削減」とありますが、日本で一番高い目標を掲げておられる、国立市、すごいと思います。<br>先日のCOP28でも再エネを3倍に、化石燃料由来の火力発電廃止についても新たに合意されておりましたが、今加速している温暖化を少しでも効果的な対策をするために、東京都国立市に続いて日本全国様々な自治体が後をついていってほしいと思っています。 | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                             | 市外    |
| 22 | 2章 | 該当するページ 33ページ<br>意見：62%目標の設定、勇気のいる決断だったと思います。日本の自治体の中で1.5℃目標達成に整合した目標値を立てている自治体はほとんどないなかで、国立市がこの目標を掲げてくれたことで全国の人々が勇気づけられています。気候と市民の生活を守るというメッセージとしてどんどん宣伝してください！                                  | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                             | 市外    |
| 23 | 3章 | 該当ページ番号：54ページ<br>太陽光発電設備は、新築にはもちろん、設置可能な既存の公共建築物に最大限設置してください。太陽光発電設備への投資は、電気料金の前払いです。早くつけたほうが、得になります。<br>(もちろん、新築は等級6相当以上で、既存の建築物の断熱改修もよろしくお願いします)                                                | 日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。<br>公共建築物の新築にあたってはZEB Ready相当以上、既存施設の大規模改修の際には合理的な対策を実施してまいります。              | 市外    |
| 24 | 2章 | P37<br>「2030 年に省エネ基準(断熱性能等級4)を満たす住宅ストック の割合を 30%に引き上げる」とありますが、今や断熱等級4はほとんどの新築でクリアされている等級水準になります。ストック市場の断熱改修は、ハードルが高いと思いますが、先々のエネルギー削減のためにもまた、健康のためにも断熱等級の6以上の推進を目指してほしいと思います。                     | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                            | 市外    |
| 25 | 3章 | 該当ページ 54ページ<br>2030年までに調達する電力の60%を再生可能エネルギー電力をすることを目指すとされていますが、東京都、杉並区、神奈川県などの自治体は2030年までに100%にすると事務事業編で計画しています。東京都の計画に準じて、2030年の調達電力を100%再生可能エネルギーにしてください。                                       | 公共施設で使用する電力については、100%再生可能エネルギーへの切り替えを順次進めております。政府実行計画に倣い、60%を目標としておりますが、他の施策の進捗や費用対効果等についても勘案する中で、更なる導入についても検討してまいります。                               | 市外    |
| 26 | 2章 | ・2030年エネルギー起源CO2 排出削減62%実現できたら素晴らしいですね。私が住んでいる福岡市は50%なので、国立市を目標にしてほしいと切に思います。<br>・市の追加的施策として、新築住宅において断熱等級6以上の普及を進めてください。（該当ページ番号：35ページ）                                                           | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                            | 市外    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 意見発出者 |
|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 27 | 3章 | <p>・市の公共施設では『可能な限り最大限、太陽光発電設備を設置』することを目指してください。市の既存の公共建築物についても「可能な限り最大限太陽光発電設備を設置」することを目指してください。（該当ページ番号：54ページ）</p> <p>・国立市の公共建築物の新築事業では、ほんとうの『ZEB』や断熱等級6を目指してください。「国立市公共建築物環境配慮整備指針」と新築事業の整備方針に関する文言を「ZEBready相当以上とします」から、「ほんとうの『ZEB』、等級6以上とします」に変更してください。（該当ページ番号：55ページ）</p>                                                                                                                                                                                                                          | <p>日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。</p> <p>新築事業における「ZEB Ready相当」は最低限のものと考えており、施設の用途や費用対効果等を踏まえて、「ZEB Ready相当」以上を目指すことも視野に入れて検討を進めます。</p>                                                                                                      | 市外    |
| 28 | 3章 | <p>・既存の公共建築物の大規模改修や、空調設備や給湯設備等を更新するときには、「省エネ性能が高い設備」や「高効率な機器等」ではなく、「省エネトップクラス」の設備や機器を導入してください。（該当ページ番号：55ページ）</p> <p>・庁用車の「代替可能な電動車（燃料電池自動車FCVプラグインハイブリッドと自動車PHV、ハイブリッド自動車H V）」という一文を削除し、「新規導入・更新する庁用車は「原則電気自動車EV」という文章に変更してください。（該当ページ番号：58ページ）</p> <p>今後の進捗状況をホームページなどで更新お願い致します。国立市が全国の模範になって行くことを期待しております。</p>                                                                                                                                                                                      | <p>既存設備の更新の際には、環境性能に加え、それぞれの現場ごとに求められる性能を満たす機器であることや費用対効果の高い機器であることも求められます。そこで、既存設備の更新の際には、費用対効果等を考慮しつつ、可能な限り省エネ性能の高い設備の導入を進める旨に記述を修正しました。</p> <p>新規導入・更新する庁用車については、電気自動車が中心となると考えておりますが、車の用途により選択の幅を持たせておくため、計画においては原則電動車としております。</p> <p>計画の進捗状況については、市ホームページ等で公表していきたいと考えております。</p> | 市外    |
| 29 | 2章 | <p>該当ページ p29</p> <p>イラストがとてもわかりやすいと思います。人間（大人、子ども）を描き入れるともっとイメージしやすくなると思います。また、太陽光発電設備については、もう少し増やしてほしいです。（できれば100%）学校の屋根には目一杯お願いします。そして、道路には自転車レーンをつけていただきたいです。（国立にはよくありますよね）集合住宅をもう少し増やしていただきたいです（もちろん、太陽光発電設備つき）。集合住宅はエネルギー効率がよくなるので、できるだけ集合住宅への誘導策をとってほしいです。コミュニティの形成にもなります。農地は、住宅街にも小さなものがいくつかあるといいと思いました。</p>                                                                                                                                                                                     | <p>今後、新築する公共建築物への太陽光発電設備の設置については、日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量、費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限の設置してまいります。また、イラストに人間を入れるとイメージしやすくなる等、様々に、ご意見ありがとうございました。今後、イラストを作成する際の参考とさせていただきます。</p>                                                                                                         | 市外    |
| 30 | 3章 | <p>P52</p> <p>温室効果ガス排出量を 2030 年度までに、2013 年度比で 66%以上削減は素晴らしい目標だと思います。</p> <p>P54</p> <p>「2030 年までに調達する電力の 60%以上を再生可能エネルギー電力とする」とありますが、ぜひ100%以上を目指していただきたいです。頑張ってください。応援しています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>公共施設で使用する電力については、100%再生可能エネルギーへの切り替えを順次進めております。政府実行計画に倣い、60%を目標としておりますが、他の施策の進捗や費用対効果等についても勘案する中で、更なる導入についても検討してまいります。</p>                                                                                                                                                         | 市外    |
| 31 | 2章 | <p>該当ページ 35ページ</p> <p>意見 国立市の計画では追加的施策として断熱等級5を普及するとされていますが、Climate Integrateのレポートによると、等級5では冬季の室内気温が10℃近くにまで低下するなど、気密性や断熱性能の観点から充分ではありません。断熱等級5から6にするのはそれほどコストアップは必要なく、断熱性能が大きく向上するそうです。</p> <p><a href="https://climateintegrate.org/wp-content/uploads/2023/10/Tackling-climate-change-inresidential-and-building-sectors.pdf">https://climateintegrate.org/wp-content/uploads/2023/10/Tackling-climate-change-inresidential-and-building-sectors.pdf</a></p> <p>市の追加的施策としては、断熱等級5ではなく等級6を進めて下さい！</p> | <p>断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>                                                                                                                                                                                      | 市外    |
| 32 | 3章 | <p>P54</p> <p>太陽光発電設備は、新築にはもちろん、設置可能な既存の公共建築物に最大限設置してください。太陽光発電設備への投資は、電気代高騰している中、10年強で回収もできるので、早くつけたほうが、お得だと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <p>日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。</p>                                                                                                                                                                                                       | 市外    |
| 33 | 3章 | <p>P55</p> <p>「国立市公共建築物環境配慮整備指針」と新築事業の整備方針に関する文言を「ZEB ready相当以上とします」から、できる限り「ほんとうの『ZEB』、等級6以上とします」に変更してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>新築事業における「ZEB Ready相当」は最低限のものと考えており、施設の用途や費用対効果等を踏まえて、「ZEB Ready相当」以上を目指すことも視野に入れて検討を進めます。</p>                                                                                                                                                                                      | 市外    |
| 34 | 2章 | <p>CO2、62%削減目標を掲げてくれたことを嬉しく思います。ぜひ計画を実行して、現実達成できることを願っていますし、遠くから応援していきます。（該当するページ番号：33ページ）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、一緒に取り組んでいただければと考えております。</p>                                                                                                                                                                                               | 市外    |
| 35 | 2章 | <p>断熱等級によって省エネの性能が違います。新築住宅において断熱等級6以上を推進する計画を立ててください。市民はその計画を応援すると思います。（該当するページ番号：35ページ）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>                                                                                                                                                                                      | 市外    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                       | 意見発出者 |
|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 36 | 2章 | ・62%削減目標、応援しています。日本の自治体のトップを走ってください！<br>・「新築住宅 断熱等級6」を誘導・市から勧めてほしい市の追加的施策として、新築住宅において断熱等級6以上の普及を進めてください。（該当ページ番号：35ページ）                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                                                                                                   | 市外    |
| 37 | 3章 | ・市の公共施設では『可能な限り最大限、太陽光発電設備を設置』することを目指してください。（該当ページ番号：54ページ）<br>・国立市公共建築物環境配慮整備指針」と新築事業の整備方針に関する文言を「ZEB ready相当以上とします」から、「ほんとうの『ZEB』、等級6以上とします」に変更してください。（該当ページ番号：55ページ）                                                                                                                                                                                                                                   | 日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。<br>新築事業における「ZEB Ready相当」は最低限のものと考えており、施設の用途や費用対効果等を踏まえて、「ZEB Ready相当」以上を目指すことも視野に入れて検討を進めます。                                                       | 市外    |
| 38 | 3章 | ・既存の公共建築物の大規模改修や、空調設備や給湯設備等を更新するときには、「省エネ性能が高い設備」や「高効率な機器等」ではなく、「省エネトップクラス」の設備や機器を導入してください。（該当ページ番号：55ページ）<br>・庁用車の「代替可能な電動車（燃料電池自動車FCVプラグインハイブリッドと自動車PHV、ハイブリッド自動車HVH V）」という一文を削除し、「新規導入・更新する庁用車は「原則電気自動車EV」という文章に変更してください。                                                                                                                                                                              | 既存設備の更新の際には、環境性能に加え、それぞれの現場ごとに求められる性能を満たす機器であることや費用対効果の高い機器であることも求められます。そこで、既存設備の更新の際には、費用対効果等を考慮しつつ、可能な限り省エネ性能の高い設備の導入を進める旨に記述を修正しました。<br>新規導入・更新する庁用車については、電気自動車が中心となると考えておりますが、車の用途により選択の幅を持たせておくため、計画においては原則電動車としております。 | 市外    |
| 39 | 全体 | CO2 62%削減という日本の自治体の中でトップクラスの目標を掲げてくださり本当にありがとうございます。国立市の政策をきっかけに私の自治体を含め、全国の自治体が温暖化対策を強化していけると思うと、希望でしかありません。ぜひ実現してください！よろしくお願いします！<br>ps.欲を言えば、市の公共施設への再エネの設置を最大限進めてほしいです。あと「新築住宅 断熱等級6」も市から勧めてほしいです。                                                                                                                                                                                                    | 日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。<br>断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                       | 市外    |
| 40 | 2章 | ★P33<br>62%以上の削減目標は、本当に素晴らしいです。実行していきましょう。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                                                                                    | 市民    |
| 41 | 3章 | ★P50<br>代替フロン等4ガス（以後フロンガスと記入）についても、空調機の老朽化などでガス漏れの可能性があるので、省エネ機器への買い替えと共にフロンガスが入っている配管の更新も行って欲しい<br>★P66<br>市役所との契約先に、省エネに貢献している事業者を優先して欲しいです。例えば認定制度を設け、総合評価入札にて加点をするなど。                                                                                                                                                                                                                                 | フロンガスが入っている配管の更新については、ご意見として承ります。<br>現状は「国立市総合評価方式実施ガイドライン」における「環境配慮」という評価項目で、「ISO14001」又は「エコアクション21」の認証を取得している場合に加点するという制度となっています。省エネに貢献している市内事業者を認定・評価する制度については、今後の検討課題とさせていただきます。                                        | 市民    |
| 42 | 3章 | ★P55<br>設備の更新時に全熱交換換気システムを導入し、窓開け換気をやめて欲しい。<br>★全体を通じて<br>・中間期以外の窓開け換気をすぐに中止し、適切な換気システムを運用することが大事です。冷暖房をつけてのドア開け放し（特に旧国立駅舎）は即刻禁止にしてほしい。商工会と連携し、店舗のドアを開け放さないように街をあげて省エネに取り組んで欲しい。<br>・公共施設の老朽化及び、国立駅周辺のビルの老朽化が目立ちます。国や東京都の補助金を活用した窓を中心にした断熱性能の改善や、老朽化した空調機及び換気設備の改修を推進して欲しいです。<br>・私も環境フェスタの実行委員として、市民への取り組みを啓発し、温暖化対策をより推進していけるよう今後も努力していきます。また、専門的な設備の知識を生かし、SNSやイベントなどを通じ、啓発活動をしていきますので、連携をして行ければと思います。 | 事業者等に省エネ改修を実施していただけるよう、省エネ診断や改修に関する情報の発信方法を検討します。<br>また、換気については、建物の特性を踏まえたうえで適切な換気に取り組んでまいります。省エネの周知という点については、市役所による取組だけでは限界があるため、一緒に啓発に取り組んでいただけると心強いです。                                                                   | 市民    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 市の考え方                                                                                                                                                 | 意見発出者 |
|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 43 | 2章 | <p>(素案の36～などに関連)</p> <p>来年、市内に住宅新築致します。年初から発注先の大手ハウスメーカーは当該建設地での制約</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準防火地域</li> <li>・景観地区(国立市景観形成条例:重点地区)</li> <li>・第一種文教地区</li> <li>・国立市まちづくり条例</li> </ul> <p>などには自ら積極的に対応していましたが、気候変動に対する配慮、断熱性能とか太陽光発電とかには概して冷淡で、東京都や国の助成などの話をこちらから依頼して対応してもらいました。(断熱性能等級6、東京ゼロエミ水準3、太陽光、蓄電池、エコワン、・・・)。ついては、国立市の住宅建築に対して、ハウスメーカーへの動機づけになるように、気候変動対策についても明確なガイドラインを追加して、先進的な誇らしい取り組みにしてほしいです。期待し応援してます。</p> | <p>ご意見いただきました通り、ハウスメーカーに情報を伝えることができれば、取組が進むことが想定されるため、ハウスメーカー等への働きかけについては、今後の検討課題とさせていただきます。</p>                                                      | 市民    |
| 44 | 全体 | <p>(33ページ)「エネルギー起源 CO2 排出量は 2030 年度までに、2013 年度比で 62%以上削減」とあります。高い目標を掲げてくださっているので、他の地域へのよい影響が出ると思います。ありがとうございます。</p> <p>(58,59ページ) 3-5.「市職員の日常業務における環境配慮取組の推進」の内容は、とても素晴らしい取り組みだと思います。市職員の方がこの取り組みを家庭に持ち帰って広めて下さればどんどん省エネが広まると思います。59ページのコラムも、省エネと健康を組み合わせるととても大切なことが書いてあってすばらしいと思います。</p>                                                                                                                                               | <p>計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。</p> <p>素案P59のコラムに書いた内容を含め、市職員が率先して日常業務における環境配慮に取り組めるよう、研修等で周知してまいります。</p> | 市外    |
| 45 | 2章 | <p>該当するページ 33ページ</p> <p>62%目標の設定は、市としても、非常に勇気のいる決断だったと思います。日本の自治体の中で1.5℃目標達成に整合した目標値を立てている自治体はほとんどない中で、国立市がこの目標を掲げたことで、全国の人々が勇気づけられています。本当にこれまでのご尽力に感謝いたします。そして、この素案が、無事決定しますよう、応援し続けます。</p>                                                                                                                                                                                                                                            | <p>計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。</p>                                                                       | 市外    |
| 46 | 2章 | <p>該当するページ 35ページ</p> <p>新築住宅において断熱等級6以上の普及を進めて欲しいです。再エネの普及がまだ時間がかかることから、そもそも、必要なエネルギーが少ない断熱等級の高い住宅が必須です。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | <p>断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>                                                      | 市外    |
| 47 | 3章 | <p>該当するページ 54ページ</p> <p>市の既存の公共建築物について、「可能な限り最大限太陽光発電設備を設置」することを目指してください。日本全国の市のロールモデルになると思うので、是非ともお願いします！</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。</p>                                                                       | 市外    |
| 48 | 3章 | <p>該当するページ 55ページ</p> <p>市の公共建築物は本当の『ZEB』にしてほしいです。世界気象機関(WMO)が今年11月30日に発表したりポートでは、今年の世界の平均気温は産業革命前の水準を約1.4度上回る見通しで、記録更新に拍車がかかっていると指摘されています。もう一刻の猶予もありません。先人をきる自治体が必要で、それが国立市だと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                  | <p>新築事業における「ZEB Ready相当」は最低限のものと考えており、施設の用途や費用対効果等を踏まえて、「ZEB Ready相当」以上を目指すことも視野に入れて検討を進めます。</p>                                                      | 市外    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                      | 意見発出者 |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 49 | 3章 | 該当するページ 55ページ（2つ目）<br>既存の公共建築物の大規模改修や、空調設備や給湯設備等を更新するときには、「省エネ性能が高い設備」や「高効率な機器等」ではなく、「省エネトップクラス」の設備や機器を導入してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 既存設備の更新の際には、環境性能に加え、それぞれの現場ごとに求められる性能を満たす機器であることや費用対効果の高い機器であることも求められます。そこで、既存設備の更新の際には、費用対効果等を考慮しつつ、可能な限り省エネ性能の高い設備の導入を進める旨に記述を修正しました。                                                                                                    | 市外    |
| 50 | 3章 | 該当するページ 58ページ<br>市が庁用車を購入する際には、原則電気自動車にしてください。市民がこれを見て、行動するのでお願いします！                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 新規導入・更新する庁用車については、電気自動車が中心となると考えておりますが、車の用途により選択の幅を持たせておくため、計画においては原則電動車としております。                                                                                                                                                           | 市外    |
| 51 | 2章 | 該当するページ 35ページ<br>潜熱回収型給湯器・ヒートポンプ給湯器をコラムでもいいので商品名「エコジョーズ・エコキュート」で記載してほしいです。市民・事業者に導入してもらうためにも書いてある方が周知が進むと思います。（東京都クールネットの補助金ページにも商品名が書いてあります）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | ご意見を踏まえ、P35・36の表記を「潜熱回収型給湯器（エコジョーズ等）」、「ヒートポンプ給湯器（エコキュート等）」に修正しました。                                                                                                                                                                         | 市外    |
| 52 | 2章 | 該当するページ 37ページ<br>脱炭素型ライフスタイルを推進するための施策として、省エネ診断士を派遣してもらえる相談窓口を常設してほしいです。市民はやはりこういうところわからないので、診断してもらえると、モチベーションが湧きます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | ご意見を踏まえ、P50の主要施策④に「市民や事業者からの相談に対応する体制の構築」を追加しました。                                                                                                                                                                                          | 市外    |
| 53 | 2章 | 該当するページ番号：33ページ<br>日本で、2030年の温室効果ガス削減目標60%を掲げている自治体だと聞いてとても勇気をいただきました。目標に賛同します。東京のなかでも、こうした先進的な目標数値を掲げる地域が出れば、東京全体の気候危機対策も、今後国立を追う形で活発になると思い東京で働いているので、メッセージを送らせていただきます。今後の国立市の気候危機対策も応援します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                                                                                                   | 市外    |
| 54 | 2章 | *①33頁・(2)削減目標 について。*<br>温室効果ガス削減目標を、「温室効果ガス排出量を 2030 年度までに、 2013年度比で60%以上削減」に設定することに賛成します。理由は、1.5℃目標を守るため、また工場などの大きな排出源がない自治体として、必要な目標だと思うからです。<br>*②37頁・(3)主要施策①住宅・事業所の省エネルギー化の促進 について。*<br>施策内容の一つ目に「住宅における高効率設備機器や省エネ型の電気機器の導入を促進するための情報発信及び、助成制度や税制優遇措置等の効果的な支援策の検討」とあります。この箇所の「情報発信」について、ぜひ、国立市の周辺自治体との広域連携もご検討いただきたいです。周辺自治体と一緒に、域内にある電気機器販売事業者と提携し、各事業者が接客時に省エネの経済的メリットを説明するよう求めることを要望します。理由は、市の広報誌やHPなどで情報発信するだけでは、読んで行動に移す人がかなり限られてしまうためです。また、国立市民が電気機器を買う際には周辺自治体の家電量販店に足を運ぶ人が多いと考えられ、そこへのアプローチが必要だと思うからです。独自での広域連携が難しい場合、都や国に対して、都や国レベルでそういった仕組みを作るよう要望することを求めます。 | 国立市域から排出される温室効果ガスを削減するためには、市民・事業者のみなさまに情報を届け、行動に移していただく必要があります。そのためには、市報や市ホームページによる情報発信だけでは限界があると考えています。脱炭素につながる行動変容やライフスタイル変革を後押しするための新しい国民運動「デコ活」との連携や、ナッジといった手法を用いたチラシの作成などに取り組んでまいります。ご意見いただきました、広域連携による家電量販店との提携については、今後の課題と認識しております。 | 在学・在勤 |
| 55 | 2章 | 国立市が2030年までのCO2削減目標を62%削減に設定したことに賛同します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                                                                                                   | 市外    |
| 56 | 2章 | P33<br>削減目標を62%に引き上げた国立市の英断に心から励まされ、涙が出そうになりました！おそらく、この目標を選択するまでに数多くのハードルがあったことと思います。「何もしないこと」が一番簡単ななか、「変えること」を選択した国立市は、未来のこどもたち、若者たちのことを想ってくれたのだらうと思います。本当にありがとうございました！これからも応援しています。<br>P35,37<br>断熱は、我慢するエコではなく快適なエコ。みんなが幸せになる方法ですし、建物由来のCO2排出は34%を占めることから、とてもパワフルな気候変動対策と言えると思います。是非、新築の断熱等級6以上を市の基準としてほしいです。                                                                                                                                                                                                                                                             | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                                                                                                                  | 市外    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                        | 意見発出者 |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 57 | 3章 | P55<br>公共施設を新築する際には、本当の『ZEB』か、断熱等級6以上を基準にしてほしいです。<br>P58<br>公用車について、ハイブリッド車は化石燃料を燃やすためCO2を排出するので、EV車を導入してほしいです。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 新築事業における「ZEB Ready相当」は最低限のものと考えており、施設の用途や費用対効果等を踏まえて、「ZEB Ready相当」以上を目指すことも視野に入れて検討を進めます。<br>新規導入・更新する庁用車については、電気自動車が中心となると考えておりますが、車の用途により選択の幅を持たせておくため、計画においては原則電動車としております。                                                                | 市外    |
| 58 | 2章 | CO2 62%削減目標を掲げてくれたことに希望を感じます！ぜひ実現してください（該当するページ番号：33ページ）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                                                                                                     | 市外    |
| 59 | 全体 | 私は気候変動に危機感を感じている市民ですが、国立の日本一高い目標を掲げている姿勢に希望を持てるようになりました。国立にならって、私の住んでいる横浜や別の自治体にも広まってほしいです。公共施設への太陽光パネルの設置等、具体策の推進にもさらに力を入れてほしいです。よろしくお願いいたします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                                                                                                     | 市外    |
| 60 | 全体 | 近ごろ激化する自然災害に、この先の子供達の未来はどうなるのか、なぜ日本はこんなにも気候変動対策が遅れているのか…と感じますが、国立市がCO2 62%削減目標を掲げてくれたことにとても大きな希望を感じています。ぜひ実現していただきたいです。よろしくお願いいたします！                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                                                                                                     | 市外    |
| 61 | 3章 | P 5 6 Z E B推進<br>Z E B推進は素晴らしいのですが、さらに、高みの設定として、住宅でいえば断熱等級6以上の建築物の標準化を目指してほしいと思います。また、住宅については、確か北九州市で断熱等級6.5を提唱して、7までは大変だけど、6以上の性能を目指す取り組みがあるそうなので、参考にさせていただきたいと思います。<br>あと、コンビニなど、商業施設、事業所施設などは、ガラス面が多いわりに単板ガラスのところが、大変多いと思っており、ここを、最低でも複層の1cm以上 または、トリプルガラスを標準していく施策をお願いいたします。既存のサッシのガラスだけを真空ガラスに変更することが可能な場合があり、その場合はコストも削減できます。※私は薬局に勤務しておりますが、経営者にお願ひし、真空ガラスにサッシはそのままに変更したところ、夏はすごく冷えやすくなり、冬も暖かくなりました。築25年くらいの建物だと思いますが、それでも窓で、快適になり電気使用量も2割削減となりましたので、ご参考にしてください。 | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                                                                                                                     | 市外    |
| 62 | 6章 | P 7 5 地球温暖化市民ワークショップ<br>気候市民会議の自治体レベルの開催と認識しましたが、大変先進的で、アイデアの創出市民の意識向上につながる、素晴らしい取組だと思いました。引き続き推進をお願いいたします。また、提案後の経過や、問題点の抽出のため、継続的な開催、前回の内容のブラッシュアップ、P C D Aサイクルが続くと、よりよいと思いますので、定常開催を希望します。                                                                                                                                                                                                                                                                           | ご意見につきましては、今後の施策の参考にさせていただきます。                                                                                                                                                                                                               | 市外    |
| 63 | 全体 | 【未来世代の権利の観点の追加】<br>未来世代が、今の地球環境で生活できる権利があると思います。そのために、今の世代ができることを最大限していくという観点を盛り込むことを希望します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ご意見を踏まえ、「はじめに（市長あいさつ文）」のなかで、「将来の世代が豊かで暮らしやすい環境を引き継げるよう、2050年のゼロカーボンシティ実現に向けて取り組んでいく」と記載しました。                                                                                                                                                 | 市外    |
| 64 | 全体 | 【太陽光パネル、蓄電池の推進について】<br>P 1 0 に東京都での義務化について記載があります。太陽光パネルの推進に賛成です。新築住宅、既存住宅、また、公共施設、事業施設すべてで、設置を推進してほしいと思います。また、蓄電池も合わせて推進し、地域での仮想発電所V P P の構想も進めていただきたいと思います。また、日本初の新技術であるペロブスカイト概要電池の普及推進も実証実験を含めて推進をお願いいたします。                                                                                                                                                                                                                                                         | 国立市域内における再生可能エネルギーは太陽光発電が中心となります。公共建築物に太陽光発電設備を設置する際には、日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量、費用対効果等を踏まえて検討してまいります。<br>地球温暖化対策の推進にあたっては、国際的な動向、国や東京都の動きなどにもアンテナを張りつつ、各種研修や事業者との意見交換等により最新情報の取得、調査研究に努めます。その上で、条件が整い、実証実験的に取り組めるものについては、積極的に採用していきたいと考えております。 | 市外    |
| 65 | 2章 | ・2030年62%の削減目標、もう一声上がりませんか。該当するページ 33ページ<br>今年の夏からは半年間異常高温続きで、今年のうちにパリ協定の目標上限温度である産業革命前から1.5℃に到達してしまったのではないかと(WMOは1月～10月までで1.4℃)、来年には間違いなく1年は1.5℃を越えそうだと、言われています。菅前政権で2050年カーボンニュートラルの目標を決めた2020年と比べても、より厳しい対策が緊急に求められている、と見るべきです。国際的にも、世界各国の対策合わせても、1.5℃ではなく3℃近い                                                                                                                                                                                                       | この間、市民・事業者のみなさまからお寄せいただいたご意見を基に積み上げた削減目標値であるため、目標値については現状の通りとさせていただきます。その上で、計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                         | 市外    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 市の考え方                                                                                                                  | 意見発出者 |
|----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 66 | 3章 | ・「2030年までに調達する電力の100％を再生可能エネルギー電力」としてください。該当するページ 54ページ<br>事業者としての国立市は、市内でも大口の事業者の一つだろう、と思います。国立市自身が再エネ100%のPPAの購入者になることを公約して、必要な毎年の予算を確保することを明記すれば、再エネ事業者にとっては大口需要があることが確定するので、国内での再エネ普及に役立つことと思います。また、先進市として、これまでも再生可能エネルギーを使っていた実績があるのではないかと思います。以前と比べての増加分で60％以上到達をめざすべき、となるはずですので、ぜひ原案の「2030年までに調達する電力の60％以上を再生可能エネルギー電力」ではなく、「100％を」目標にしていいただければと思います。 | 公共施設で使用する電力については、100％再生可能エネルギーへの切り替えを順次進めております。政府実行計画に倣い、60％を目標としておりますが、他の施策の進捗や費用対効果等についても勘案する中で、更なる導入についても検討してまいります。 | 市外    |
| 67 | 2章 | 素案33ページのエネルギー起源co2排出量は2030年までに、2013年度比で62%以上削減と記載がありました。このような高い目標で計画してくださる自治体は初めてだと思うのでとても応援しています。本来どの自治体にも同様の目標で取り組んで気候危機を止めたいと願っているの、ぜひ他の自治体の先陣を切るように進んで欲しいです。                                                                                                                                                                                             | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                               | 市外    |
| 68 | 2章 | 国立市の英断に拍手を送ります！温室効果ガス62%削減は国内でもトップの目標値です。ぜひぜひ達成し、他の自治体のお手本となって、日本を引っ張って行ってください。応援しています！                                                                                                                                                                                                                                                                      | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                               | 市外    |
| 69 | 2章 | 2030年にCO2 62%削減、温室効果ガス60%以上削減（共に2013年比）という目標に賛成します。国が低い目標にとどまる中、まず自治体が2050年カーボンニュートラルに整合する目標を掲げ、効果的な実践計画を進めることはとても重要で、意義があることだと思います。国立市が先行事例となり、他の自治体にも波及するよう応援します。                                                                                                                                                                                          | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                               | 市外    |
| 70 | 全体 | こんにちは。第2常、第3卓についてです。地球温暖化対策に市で取り組む姿勢を心から嬉しく思います。私は横浜市民なのですが、国立市のパブリックコメントを知り、応援したい、ぜひ実現させてほしいとの思いを伝えたいと思い投書させていただきました。今年は国連のグテーレス事務総長から地球沸騰化を宣言されるほど気候変動は深刻化しており、私も危機感をつのらせています。気候変動に危機感を持って取り組む市があることを嬉しく思います。ぜひ実現させてください。国立市から全国の市町村へ気候変動に取り組む姿勢が広がることを期待しています。                                                                                            | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                               | 市外    |
| 71 | 全体 | ・国立市での削減目標値に関して、他市に住む我々からして憧れを持つような素晴らしい62%であると思います。この点はそのような意味でも他自治体との差別化を図り良いブランディングの一環となりますので、是非高い目標の設定をよろしくお願いします。また実行力も問われます。国立市の本気度が伝わる活動に活かしていただければと存じます。<br>・その一環ですが、建築物の断熱等級や省エネ施策、市内での再エネの活用、EVの導入はこの目標を達成するためにも必須です。市内公共施設や公用車はもちろん、市民・企業がそれらを実施できる施策を早急に打って欲しいです。                                                                                | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                               | 市外    |
| 72 | 2章 | 該当ページ：33ページ<br>CO2 62%削減目標を掲げてくださったことに感謝しています。実行にむけても是非日本の自治体の温暖化対策を牽引してください。<br>該当ページ：35ページ<br>市の追加的施策として、新築住宅において断熱等級6以上の普及を進めてください。国のZEH.ZEB基準では不足していることが言われています。本当のゼロエミッション建物の推進をお願いします。                                                                                                                                                                 | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                              | 市外    |
| 73 | 2章 | 該当ページ：47ページ<br>緑地の保全及び緑化の推進の全項目を支持します。都市部(住環境)における緑の価値を明示しあらゆる方法で保全・育成をお願いします。また併せて生物多様性保全の観点も本項目の取り組みを進める際の視点として取り入れていただきたいです。                                                                                                                                                                                                                              | 「緑の基本計画」の改定に合わせ、生物多様性に関わる中長期的な総合戦略として「生物多様性地域戦略」を策定し、自然環境が有する多様な機能の再認識、グリーンインフラ機能などの積極的活用を進め、自然の保全・回復に取り組んでまいります。      | 市外    |
| 74 | 3章 | 該当ページ：54ページ<br>市の既存の公共建築物についても「可能な限り最大限太陽光発電設備を設置」することを目指してください。                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。                                               | 市外    |
| 75 | 2章 | 2030年エネルギー起源CO2削減目標を62%に引き上げていただき、本当にありがとうございます。まだ日本中どの行政も1.5度目標に整合する基準を設定していない中、国立市のこの目標は地球沸騰化時代を生きる中でひとつの希望です。勇気の必要なご決断だったかと思いますが、心から感謝しています。素案採決まで応援しています。                                                                                                                                                                                                | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                               | 市外    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 意見発出者 |
|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 76 | 全体 | 【削減目標】 P33<br>62%削減の目標は素晴らしいです。ぜひ実現させてください。<br>【ZEH、ZEB】 P35.55<br>日本の定義では断熱等級5以上となっていますが、欧米では6以上が基本となっています。猛暑や寒波など極端な気候が多くなる中ではより高い等級の設定が必要だと思うので「等級6以上」を市の基準にしてください。ZEBでも同じことが言えます。またどちらも太陽光パネル設置義務を設定するなど本当のネットゼロを目指したルールが必要です。<br>【庁用車】 P58<br>電気自動車の推進ではなく、買い換える際は全て電気自動車にしてください。また、ハイブリッドなどガソリンを使用するものは電動車から除外してください。 | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。<br>新築事業における「ZEB Ready相当」は最低限のものと考えており、施設の用途や費用対効果等を踏まえて、「ZEB Ready相当」以上を目指すことも視野に入れて検討を進めます。<br>新規導入・更新する庁用車については、電気自動車が中心となると考えておりますが、車の用途により選択の幅を持たせておくため、計画においては原則電動車としております。                                                                                                                           | 市外    |
| 77 | 2章 | 33ページ<br>CO2 62%削減目標を掲げてくれたことに心から希望を感じます！応援しています！！<br>35ページ<br>市の追加的施策として、新築住宅において断熱等級6以上の普及を進めてください。                                                                                                                                                                                                                       | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 市外    |
| 78 | 3章 | 54ページ<br>市の既存の公共建築物についても「可能な限り最大限太陽光発電設備を設置」することを目指してください。<br>55ページ<br>国立市の公共建築物の新築事業では、ほんとうの『ZEB』や断熱等級6を目指してください。<br>55ページ<br>既存の公共建築物の大規模改修や、空調設備や給湯設備等を更新するときには、「省エネ性能が高い設備」や「高効率な機器等」ではなく、「省エネトップクラス」の設備や機器を導入してください。<br>58ページ<br>市が庁用車を購入する際には、原則電気自動車にしてください。2030年までに66%削減という良い目標を実現させるためには、EVを選ぶことが必要だと思います。         | 日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。<br>新築事業における「ZEB Ready相当」は最低限のものと考えており、施設の用途や費用対効果等を踏まえて、「ZEB Ready相当」以上を目指すことも視野に入れて検討を進めます。<br>既存設備の更新の際には、環境性能に加え、それぞれの現場ごとに求められる性能を満たす機器であることや費用対効果の高い機器であることも求められます。そこで、既存設備の更新の際には、費用対効果等を考慮しつつ、可能な限り省エネ性能の高い設備の導入を進める旨に記述を修正しました。<br>新規導入・更新する庁用車については、電気自動車が中心となると考えておりますが、車の用途により選択の幅を持たせておくため、計画においては原則電動車としております。 | 市外    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 意見発出者 |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 79 | 2章 | <p>○ 計画（素案）は、以下の点で問題点及び不十分な点がありますので、このまま計画として決定することには反対です。根本からの再検討（環境審議会へのかけ直し、事前公表）または大幅な加筆修正を求めます。</p> <p>○ 全削減目標の85％を占める「国の温対計画で位置付けられた省エネ 73.1千t-CO<sub>2</sub>」、「電力会社の排出係数削減 43.5千t-CO<sub>2</sub>」、「CO<sub>2</sub>以外の温暖化ガス削減 20千t-CO<sub>2</sub>」の根拠と内容が「計画（素案）」に示されていません。大幅な加筆なしに計画を決定することには反対です。</p> <p>○ ロードマップ記載の説明が、計画（素案）では省略されているため、目標設定に至る過程がブラックボックスとなっており、結果の数値しかわかりません。これでは事後の検証ができません。大幅な加筆が必要です。</p> <p>○ 通常の計画は、施策ごとに目標数値を積算し、それを積み上げて全体の目標量と削減率を表示するものではありませんか。今回の計画（素案）はそうした手法をとらずに、政府計画の全体の削減率（46％）と部門別削減率から出発し、それを国立市に適用した上で削減項目（ロードマップでは22項目でしたが、素案にはそれすら表示はありません）を一括して表示する形式となっています。この方式ではそれぞれのさらに詳細な項目での個別の施策、とりくみを検討・推進できません。素案で採用した方式を逆転して、個別施策による積み上げ、国立市内の総CO<sub>2</sub>排出量とその削減量を基本にした計画にあらためるべきです。</p> <p>○ とくに、「国の温対計画で位置付けられた省エネ 73.1千t-CO<sub>2</sub>」は、計画全体の削減目標量の45.7％を占める最大項目なのに、その内容は全く不明です。これは素案の致命的な欠点です。ロードマップでは22項目あげていましたが、それと同一なのか、異なるのか、内容を明記すべきです。このことなしに計画を決定するとしたら、それは「計画」とはいえません。</p> | <p>国の施策との整合を図る意味からも、国の地球温暖化対策計画を基に省エネによる削減見込量を算出しております。その際、国立市の特性に沿った数値となるよう、人口やGDPなどの活動量に応じて按分して算出しております。</p> <p>ご意見を踏まえ、P30に「国の温対計画に位置付けられた省エネの内訳」を追加しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 市民    |
| 80 | 2章 | <p>○ また、上記について、計画（素案）が達成できるかどうかを左右する内容をお持ちすから、ロードマップでの表示内容にとどまらず、項目ごとに評価指標、国立市での2013年度数値または2030年度目標を、とりわけ、国立市内でのエネルギー消費量（市内CO<sub>2</sub>削減量）への影響量をていねいに表示すべきです。計画の検証と対策の検討・推進のために絶対に必要です。</p> <p>そのさい市内での排出用削減に直接結びつかない部分は控除すべきです（たとえば道路交通、トラクトレーラー、共同配送）。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>国立市域全体の温室効果ガス排出量は、オール東京62市区町村共同事業みどり東京・温暖化防止プロジェクト「多摩地域の温室効果ガス排出量」のデータを活用して把握します。</p> <p>また、各施策ごとに「進捗管理指標」を掲げております。これらの指標については、各種統計データや、市民アンケート等を活用して、定期的なモニタリングを行うことを想定しております。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                               | 市民    |
| 81 | 2章 | <p>○ 「国の温対計画で位置付けられた省エネ 73.1千t-CO<sub>2</sub>」がロードマップと同様の内容だとすると、「高効率な省エネルギー機器の普及（業務部門、家庭部門）25.13」（寄与分）は削減項目中最大の削減量となっていますが、これは政府計画別表中の「13. 高効率な省エネルギー機器の普及（業務その他部分）」814.6万t-CO<sub>2</sub>に対応すると思われます。これに対して国立市寄与分で25.13t-CO<sub>2</sub>を見込んでいますが、他の項目の寄与分相当の比率に比べて突出して大量の削減量が算出されています。人口比では想定できません。国立市での寄与分算出の方式、数値を明らかにしてください。あわせて、どういう状況がつけられれば達成可能なのか、示してください。数値の誤りであれば修正が必要です。</p> <p>○ 計画（素案）p.36～37の「主要施策」には、全国規模での国の指標の一部が表示されているものの、国立市での目標指標と数値は欠落しています。温暖化対策の中心点は総排出量の削減と削減率ですから、国立市でどこまで達成するかの具体的な指標等が必要です。施策メニューの充実と年次計画の作成、国立市での具体的数値目標の表示委を求めます。</p> <p>○ 以上を推進するためには、（計画の再検討以外に）、市長を責任者とする仮称推進本部の設置が必要だと思います。事務局＝環境政策課にしても、それだけでは全庁的な取りくみとなるか疑問です。取りくみ体制の強化をご検討ください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>「高効率な省エネルギー機器の普及（業務部門、家庭部門）」は、国の地球温暖化対策計画中「13.高効率や省エネルギー機器の普及（業務その他部門）」と「22.高効率な省エネルギー機器の普及（家庭部門）」の数値をGDP、人口でそれぞれ按分して算出しております。ご意見を踏まえ、P30に「国の温対計画に位置付けられた省エネの内訳」を追加しました。</p> <p>ご意見を踏まえ、P35以降の「成果目標」を「削減目標」と「進捗管理指標」に分け、「進捗管理指標」の項目を追加しました。これらの指標については、各種統計データや、市民アンケート等を活用して、定期的なモニタリングを行うことを想定しております。</p> <p>計画の策定にあたっては、関係課長からなる地球温暖化対策推進部会で議論をしたうえで、市長をトップとした地球温暖化対策推進本部会議で内容を確認しております。計画の推進にあたって、地球温暖化対策推進本部会議に進捗状況を報告し、評価を行ったうえで、必要な施策について検討・実施してまいります。</p> | 市民    |
| 82 | 2章 | <p>今回の国立市地球温暖化対策実行計画素案で60%以上のCO2削減という目標を掲げていること、素晴らしいと思っております。地球の平均上昇温度を1.5° 以下で止め、温暖化による影響をできるだけ抑えるために必須な60%+削減を目指していただき、ありがとうございます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | <p>計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 市外    |
| 83 | 全体 | <p>・62%目標につよく賛同します！策定の途中で、きっと施策ひとつで何トンのCO2が削減できるかという積み上げ作業、とても地道に根気強くやってくださったのではないかと思います。環境政策係の皆さん、ありがとうございます！！</p> <p>・62%実現のために、窓断熱の健康への効果や電気代が下がる、パネルは防災にも役立つなど、気候変動対策が環境面以外のメリットがあるということを市から伝えていってくださることを提案します。日本人の気候変動対策へのイメージが海外の人よりも「我慢が必要」「お金がかかる」などマイナスの印象が強いいらしいので、市民を巻き込むためには、他の効果も同時に伝えるといいのではないかと思います。</p> <p>・【区域施策編】市民および事業者によってほしいことや、市民・事業者が使える国・都の補助金、またクールネットHPのことをどんどん知らせてほしいです。長野県ゼロカーボン戦略で「県民にやってほしいこと」というページがあったり、東京都クールネットHPはパネルへの疑問や補助金をまとめてあって、分かりやすいと思ったので、検討をお願いします。</p> <p>・この計画での削減量と導入で大事なところが給湯器だと思いました。ぜひ国（経産省）と東京都からの補助金を市役所内、市民、事業者伝えてほしいです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>ご意見を踏まえ、市民の方に気候変動対策が環境面以外のメリットがあるということを伝えられるよう、内容を追加しました。市ホームページにおいても、国や東京都の補助金情報を伝えていきたいと考えています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 市民    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 意見発出者 |
|----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 84 | 2章 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO2 62%削減目標を掲げてくれたこと嬉しいです。ぜひ実現して欲しいです。（該当するページ番号：33ページ）</li> <li>・市の追加的施策として、新築住宅において断熱等級6以上の普及を推進して欲しいです。（該当ページ番号：35ページ）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 市外    |
| 85 | 3章 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の既存の公共建築物についても「可能な限り最大限太陽光発電設備を設置」することを目指してください。（該当ページ番号：54ページ）</li> <li>・「国立市公共建築物環境配慮整備指針」と新築事業の整備方針に関する文言を「ZEBready相当以上とします」から、「ほんとうの『ZEB』、等級6以上とします」に変更してください。（該当ページ番号：55ページ）</li> <li>・既存の公共建築物の大規模改修や、空調設備や給湯設備等を更新するときには、「省エネ性能が高い設備」や「高効率な機器等」ではなく、「省エネトップクラス」の設備や機器を導入してください。（該当ページ番号：55ページ）</li> <li>・市が庁用車を購入する際には、原則電気自動車にしてください。2030年までに66%削減という良い目標を実現させるためには、EVを選ぶことが必要だと思います。（該当ページ番号：58ページ）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。</p> <p>新築事業における「ZEB Ready相当」は最低限のものと考えており、施設の用途や費用対効果等を踏まえて、「ZEB Ready相当」以上を目指すことも視野に入れて検討を進めます。</p> <p>既存設備の更新の際には、環境性能に加え、それぞれの現場ごとに求められる性能を満たす機器であることや費用対効果の高い機器であることも求められます。そこで、既存設備の更新の際には、費用対効果等を考慮しつつ、可能な限り省エネ性能の高い設備の導入を進める旨に記述を修正しました。</p> <p>新規導入・更新する庁用車については、電気自動車が中心となると考えておりますが、車の用途により選択の幅を持たせておくため、計画においては原則電動車としております。</p> | 市外    |
| 86 | 全体 | <p>立川市在住です。隣市で自転車の活動範囲内なので、国立のお気に入りの店やカフェをしょっちゅう利用しています。自分が立川市のワークショップに初めて参加し、他ではどのようなワークショップをしているのかと、偶然見つけたp75の第2回ワークショップを傍聴させていただきました。ゼロエミ国立のプレゼンテーションレベルの高さに仰天し、資料をいただいて、立川の環境課に渡して、立川でも作ってほしいと依頼してしまいました。このワークショップを受けてどのような案を作るのかと見させていただきましたが、大変感心しました。</p> <p>しっかりとアンケートや調査で現実を踏まえつつ、ワークショップで出た市民の意見も取り入れて(目の前のテーブルでミストの案などが出て感心していました)、素晴らしい案にまとまっています。特にp33「温室効果ガス排出量を2030年度までに、2013年度比で60%以上削減 ※ エネルギー起源CO2排出量は2030年度までに、2013年度比で62%以上削減」は日本の最先端の対応ではないかと思います。個人的には、p46「4-3. 基本施策3：脱炭素まちづくりの推進(1)施策の基本方向」の中の、p47「③緑地の保全及び緑化の推進」を入れていることが国立の意識の高さだと思いましたが、先日国立第二小学校の桜の木40本が、立て替えのために伐採される予定のところ、掘り上げて移植先を検討しているという話を聞きました。あちこちで建物を建てるために樹木を伐採する話を聞きますが、さすが国立は違うと思います。是非この案を実践していただけますよう期待しております。立川は遅れていますが、市民として頑張らねばと思いました。ありがとうございました。</p>                         | 計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみならずの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 市外    |
| 87 | 3章 | <p>&lt;事務事業編&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.54(1)太陽光発電の有効的な設置について</li> </ul> <p>「施設の電力需要量を考慮しつつ、有効的な太陽光発電設備を設置する」という表記を「可能な限り最大限、太陽光発電設備を設置」にしてください。また、「既存の公共建築物についても、太陽光発電設備の設置可能性について検討を行い、太陽光発電設備を設置します」も同様に「既存の公共建築物～略～、可能な限り最大限太陽光発電設備を設置します」に変更してください。</p> <p>理由：現在、建設中の第二小学校の屋上には躯体として太陽光パネル設置可能な容量は25kwですが、実際に載せるのは5kwになると聞いています。市の方は「新しい施設を運用して、電力需要量をみてからパネル設置を検討する」と話して、その方針をとっていらっしゃるのですが、建築の専門家は「ゼロカーボンに向けて躯体に最大限載せられるだけ載せて、余った電力は売電すればいい」と言っていました。ここでの目標がおそらく公共建築の指針にも影響するかなと思うので、「最大限載せる」という方針を記載していただくことを支持します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.54（2）再エネ電力調達について「2030年までに調達する電力の60％を再生可能エネルギー電力をすることを目指す」とされていますが、東京都の計画に準じて、国立市も2030年の調達電力を100％再生可能エネルギーにしてください。杉並区や神奈川県などの自治体の事務事業編では、2030年までに100％にする方針にしています。</li> </ul> | <p>日射条件や他の用途との調整、施設の電力需要量や費用対効果等を考慮しつつ、太陽光発電設備を可能な限り最大限設置するという趣旨で本文を修正しました。</p> <p>公共施設で使用する電力については、100％再生可能エネルギーへの切り替えを順次進めております。政府実行計画に倣い、60％を目標としておりますが、他の施策の進捗や費用対効果等についても勘案する中で、更なる導入についても検討してまいります。</p>                                                                                                                                                                                                           | 市民    |
| 88 | 3章 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.55（1）ZEB化の推進</li> </ul> <p>ZEBreadyではなく「本当のZEB」もしくは「等級6以上」に変更してほしいです。2030年に66%削減と2050年カーボンゼロを実現するために、今から建て（替え）る公共建築は、高断熱で創エネを備えた建物にしておく必要があると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・p.55（3）「更新する場合は、省エネ性能の高い設備の導入を進めます」と示していることに賛同します。ただ、「省エネ性能の高い」ではなく「省エネトップクラスの設備」に変更していただきたいです。</li> <li>・p.54～55 公共施設での省エネ再エネ、断熱化を進めるために、国や東京都の補助金をどんどん使ってってください！</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>新築事業における「ZEB Ready相当」は最低限のものと考えており、施設の用途や費用対効果等を踏まえて、「ZEB Ready相当」以上を目指すことも視野に入れて検討を進めます。</p> <p>既存設備の更新の際には、環境性能に加え、それぞれの現場ごとに求められる性能を満たす機器であることや費用対効果の高い機器であることも求められます。そこで、既存設備の更新の際には、費用対効果等を考慮しつつ、可能な限り省エネ性能の高い設備の導入を進める旨に記述を修正しました。</p> <p>公共施設の改修にあたっては、これまでも国や東京都の補助金の活用その他、交付税措置のある有利な起債を選択するなど、市負担が少なくなる手法を検討してまいりました。今後も継続してまいります。</p>                                                                     | 市民    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 市の考え方                                                                                                                                                                                                              | 意見発出者 |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 89 | 全体 | <p>・2024年に子どもや学生、アンダー30歳を対象にしたワークショップを開いていただきたいです。理由：気候変動の影響を長く受ける世代の声を、大人世代は聞く必要があると思ったため。</p> <p>・国立駅パラソルのような、市民や事業者が、温暖化対策について知れたり、補助金の相談や申請をできたりする、スペース（窓口）を作っていただければと思います。八王子温暖化対策推進センターでは、市からの委託事業として中小企業の補助金申請の対応をしているそうです。</p> <p>・ドラッグストアや旧駅舎のベンチスペースなど、エアコンの暖気（冷気）がダダ漏れなことが過剰に電気を使っていると気になるので、「空調をしているときにエアコンの空気を逃がさないようにするのが省エネ、気候変動対策、電気代削減になる」という情報が広まったり、消費者も「それイイネ」と思えるような取り組みをしていただきたいです。例えば、対策しているお店を表彰するなど</p> <p>【参考情報】<br/>東京都補助金 地産地消型再エネプロジェクト 自治体も2/3補助です（来年度もあります）<br/><a href="https://www.tokyo-co2down.jp/wp-content/uploads/2023/06/saiedounyushien_guide_2306.pdf">https://www.tokyo-co2down.jp/wp-content/uploads/2023/06/saiedounyushien_guide_2306.pdf</a><br/>&lt;<a href="https://www.tokyo-co2down.jp/wp-content/uploads/2023/06/saiedounyushien_guide_2306.pdf?fbclid=IwAR1xpvspHvMpR2Qe23Z0opwcP-Lgkliwc8onoefRffy16VWs3labDaPgG90">https://www.tokyo-co2down.jp/wp-content/uploads/2023/06/saiedounyushien_guide_2306.pdf?fbclid=IwAR1xpvspHvMpR2Qe23Z0opwcP-Lgkliwc8onoefRffy16VWs3labDaPgG90</a>&gt;<br/>自治体施設・学校にも使える補助金 補正予算 環境省分 <a href="https://www.env.go.jp/content/000171711.pdf">https://www.env.go.jp/content/000171711.pdf</a><br/>&lt;<a href="https://www.env.go.jp/content/000171711.pdf?fbclid=IwAR3qhSvEnr1ix38K-IUwRCzvFN-QjMmGCG2r3b-KfR4OyzG_mseGjhYQ10">https://www.env.go.jp/content/000171711.pdf?fbclid=IwAR3qhSvEnr1ix38K-IUwRCzvFN-QjMmGCG2r3b-KfR4OyzG_mseGjhYQ10</a>&gt;<br/>P14（自治体も使える）業務用建築物の脱炭素改修加速化支援事業 既存建築物の外皮の高断熱化及び高効率空調機器等の導入を促進するため、設備補助を行う。<br/>主な要件 改修後の外皮性能BPIが1.0以下となっていること及び一次エネルギー消費量が省エネルギー基準から用途に応じて30％又は40％程度以上※2<br/>削減されること（ホテル・病院・百貨店・飲食店等 30%、事務所・学校等 40%）、BEMSによるエネルギー管理を行うこと主な対象設備 断熱窓、断熱材、高効率空調機器、高効率照明 等（設備によりトップランナー制度目標標準値を超えるもの等、一定の基準を満たすものを対象とする。）<br/>補助額 改修内容に応じて定額又は補助率1/2～1/3相当<br/><a href="https://www.env.go.jp/content/000176459.pdf">https://www.env.go.jp/content/000176459.pdf</a><br/>&lt;<a href="https://www.env.go.jp/content/000176459.pdf?fbclid=IwAR1xpvspHvMpR2Qe23Z0opwcP-Lgkliwc8onoefRffy16VWs3labDaPgG90">https://www.env.go.jp/content/000176459.pdf?fbclid=IwAR1xpvspHvMpR2Qe23Z0opwcP-Lgkliwc8onoefRffy16VWs3labDaPgG90</a>&gt;</p> | <p>若い世代の意見を聞くために、昨年度に小中学生を対象としたアンケートを行ったところですが、今後も市民・事業者のみなさまと情報を共有しながら、ゼロカーボンシティの実現を目指した取組を進めてまいります。</p> <p>ご意見を踏まえ、P50の主要施策①に「市民や事業者からの相談に対応する体制の構築」を追加しました。</p> <p>また、省エネ行動が市民の皆さんに浸透するような取組を推進していきたいと思います。</p> | 市民    |
| 90 | 2章 | 2030年エネルギー起源CO2 排出削減62%実現できたらすごいとおもうので市の追加的施策として、新築住宅において断熱等級6以上の普及を進めていただけないでしょうか。何卒よろしくお願いします。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。                                                                                                                          | 市外    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                       | 意見発出者 |
|----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 91 | 全体 | <p>&lt;全体&gt; タイトル</p> <p>【意見及び理由】</p> <p>国連事務総長の発言にあるように、世界では「地球温暖化（Global Warming）」よりも「地球沸騰化（GlobalBoiling）」という言葉を使い始めています。「地球温暖化対策実行計画」ではなく、「気候危機対策行動計画」に名称変更してください。他の自治体でも、別の名称を使っている例があります（札幌市気候変動対策行動計画（2023年）、小田原市気候変動対策推進計画（2023年）、矢板市気候変動対策計画（2023年）など）。また、「気候危機」というキーワードも使われ始めています（世田谷区気候危機対策会議、「第3次多摩市みどりと環境基本計画（素案）」より「気候危機への対策」など）。</p> <hr/> <p>&lt;全体&gt; タイトル</p> <p>【意見】</p> <p>タイトルに目標年度を入れてください。また、「〇〇計画」だけでは、行政に何十とある計画の一つとしか受け止められないので、また、一目でわかるキャッチフレーズを入れてください。</p>                                                                                                                                  | いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考にさせていただきます。                                                                                                                                                                                                         | 市民    |
| 92 | 1章 | <p>&lt;p.5&gt; 地球温暖化対策をめぐる国際的な動向</p> <p>【意見】</p> <p>パリ協定のその後を記載していることは重要です。特に2021年「IPCC第6次報告書WG1報告書」で言及された炭素予算に言及していることを評価します。その上で、国立市の計画なので国立市に引きつけて考えるため、1.5度に抑えるために世界全体で残された炭素予算4000億tを（2020年の世界と国立市の排出割合から単純計算すると）国立市に換算すると何万tになるのか、記述してください。また、世界気象機関（WMO）の、現状のままでは66%の確率で2027年までに1.5度を超えるという最新の年次報告書や、1.5度に抑えても今後2000年間海面が上昇し続け最大3mに達するという報告書についても、記述してください。</p> <hr/> <p>&lt;p.7&gt; 2030年度におけるエネルギー需給見通し</p> <p>【質問と意見】</p> <p>何の検証もなく、「原子力発電所の再稼働を進め、電源構成のうち20～25%が見込まれています」と記述されています。資源エネルギー庁の見通しでは「20～22%」ですが、「～25%」の数字の根拠は何でしょうか？しかも、「20～22%」の達成ですら全原発27基が再稼働している計算になります。全原発の再稼働を前提とするような非現実的な見通しは削除してください。</p> | いただいたご意見につきましては、今後の施策の参考にさせていただきます。<br>素案P7の原子力発電については、国の見通しに基づき、20～22%が見込まれると記載しております。                                                                                                                                                     | 市民    |
| 93 | 2章 | <p>&lt;p.15&gt; （1）人口・世帯</p> <p>【質問と意見】</p> <p>「学生やシニア層が多いまち」という特性に着目されたのは良いポイントですが、後の記述（特に施策）には、全く反映されていません。国立市の特性を具体的に活かした施策を記載してください。</p> <hr/> <p>&lt;p.22&gt; （3）温暖化対策を行わない場合の排出量の将来推計</p> <p>【意見】</p> <p>「人口増加」や「経済成長に伴う企業活動の活発化」により増加する見通しをたてていますが、人口増の内訳は高齢者人口の急増で、年少人口や現役世代人口は10年以上前から一貫して減少しており、日本全体の経済成長も20年以上ほぼゼロ成長であることを考えると、非現実的な見通しではないでしょうか。また、2027年までに1.5度を超える可能性が高い中、先進国が率先して脱成長にシフトしなければ、省エネや再エネで1.5度はおろか2度目標も達成することはできません。人口も経済もゼロもしくはマイナス成長の前提で排出量見通しを立ててください。</p>                                                                                                                                     | 若い世代は、地球温暖化対策の影響を長く受ける世代であり、これからの未来をつくっていく世代であるという認識から、大学生や中高生のアイデアを積極的に取り入れ、実現していくことが重要だと考えます。<br>また、シニア層にも届く情報発信や相談体制が求められます。ご意見を踏まえ、P50に記述を追記しました。<br>温暖化対策を行わない場合の排出量の将来推計について、国は、環境、経済、社会の統合的向上を目指す方向性を掲げており、国立市としても、これを目指すべきだと考えています。 | 市民    |

| No | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 意見発出者 |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 94 | 2章 | <p>&lt;p.23-24&gt;（１）省エネルギーによる削減ポテンシャル</p> <p>【意見】人口・経済を脱成長にシフトさせる前提で計算し直せば、省エネポテンシャルはもっと大きいはずです。また、具体的には断熱住宅推進やリサイクル推進をあげていますが、「徹底した省エネ」というのであれば、太陽熱利用など、効率的な施策をもっとあげてください。この後の記述でも、省エネ施策（特に脱成長・ダウンサイジングの視点）のトーンが弱いように思います。</p> <hr/> <p>&lt;p.25&gt;（３）森林吸収量ポテンシャル</p> <p>【意見】「カーボンオフセット」は、お金で炭素削減分を買うようなものですが、毎年投入できる森林環境譲与税じたい微々たるものです。国立市内における植樹はヒートアイランド改善効果しか見ていませんが、大胆に進めていけば、結果としてエアコンやマイカー等のエネルギー利用量が減るなど、効果があるはずであり、消極的な表現が気になります。実際、市内の緑化や水循環にこれまで大胆な取り組みはされず、後退する一方です。市内緑化、市外緑化（カーボンオフセット）を、目標を持ってもっと集中的に進めるため、もっと積極的な記述にしてください。</p> <hr/> <p>&lt;p.23-24&gt;（１）省エネルギーによる削減ポテンシャル、&lt;p.24&gt;（２）再生可能エネルギーの導入ポテンシャル、&lt;p.25&gt;（３）森林吸収量ポテンシャル</p> <p>【意見】ポテンシャルを「絵に描いた餅」にせず、本気で実現するため、そのポテンシャルを何年までに達成するのか、年度ごとの目標数値、そのための具体的な施策（規制と経済的誘導策）を記述してください。</p> | <p>国立市内における温室効果ガスの削減可能量として、省エネについては国の温対計画に基づいた数値を用いています。なお、本計画においては、人口・経済を脱成長にシフトさせるという前提は取っておりません。</p> <p>また、太陽熱については、一部の公共施設において既に導入しているところですが、熱エネルギー（太陽熱や地中熱）や水素エネルギー等、様々な再生可能エネルギーの活用については、今後導入可能性を研究していく考えです。</p> <p>緑化については、生態系の保全に貢献する効果、ヒートアイランド等の熱環境を改善する効果等が見込まれるため、今後も引き続き、緑の保全、緑化の推進に努めます。ご意見を踏まえ、P49の文章を修正しました。</p> <p>ご意見を踏まえ、P35以降の「成果目標」を「削減目標」と「進捗管理指標」に分け、「進捗管理指標」の項目を追加しました。各年度ごとの目標値は定めておりませんが、2030年度に向けての進捗状況の確認は、来年度以降、適宜行っていきます。計画の進捗を管理するなかで、課題を洗い出し、必要な取組に優先順位を付けて予算化してまいります。</p> | 市民    |
| 95 | 2章 | <p>&lt;p.26&gt; 2-1. 将来ビジョン</p> <p>【意見】</p> <p>技術やライフスタイルに期待していますが、もっとも重要な社会の仕組みの大胆な転換のビジョンがありません。システム・チェンジの視点を取り入れ、前面に出してください。気候変動の影響に、気候難民（2050年までに2億人超）や戦争などを加えてください。将来世代・発展途上国の人々の気候正義（不平等の是正）の視点が欠けているので、ビジョンの根幹に記述してください。また、「地域経済循環構造」の構築を明示したのは良いことだと思いますが、（経済の）脱成長なくしてゼロカーボンは現実的にあり得ません。脱成長の視点を明確にしてください。</p> <hr/> <p>&lt;p.29&gt;市民が描くゼロカーボンシティの姿</p> <p>【意見】</p> <p>将来像をビジュアル化する試みはとても良いと思います。が、このイメージ図からは国立らしさは見えず、他のまちの将来の姿と言われても違和感がありません。今回はこれで良いと思いますが、来年度以降、もっと広範な市民や子どもを巻き込んで、もっと具体的な国立のまちに落とし込んだイメージづくりのワークショップを（毎年でも）やってみてはいかがでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                            | <p>ご意見を踏まえ、「はじめに（市長あいさつ文）」のなかで、「将来の世代が豊かで暮らしやすい環境を引き継げるよう、2050年のゼロカーボンシティ実現に向けて取り組んでいく」と記載し、P4に気候変動の影響等の内容を追加しました。</p> <p>国立市が目指す2050年ゼロカーボンシティの姿は、温室効果ガスの排出量が実質ゼロになっているだけではなく、新しい技術やライフスタイルなどによって、今よりも豊かで暮らしやすい都市の姿です。経済の脱成長が、その前提条件とは考えておりません。</p> <p>また、ワークショップに関するご意見は、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>                                                                                                                                                                                                         | 市民    |
| 96 | 2章 | <p>&lt;p.30～&gt; 2-2. 温室効果ガスの削減目標</p> <p>【質問と意見】</p> <p>これ以降に記述されている「温室効果ガス削減目標量」というのは、2030年の目標でよろしいでしょうか？各区分の記述が、「国の温対計画に位置付けられた省エネ」など、あまりに雑駁すぎます。省エネの追加的施策が省エネ住宅やリサイクルだけというのも、再エネ導入が太陽光発電設備と再エネ電力切替だけ記載されているのも、アンバランスな印象があります。</p> <p>また、p.35以降の「成果目標」と記述が被っているのも気になりました。全体の構成を整理した上で、全体の目標と、より具体的な施策に落とした目標を整理した方が、わかりやすくなります。具体的な施策については「太陽熱利用」であったり、「マイカー交通量削減」であったり、もっとたくさん具体策を目標値と共に記述し、実際に目標管理をしてください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>ご指摘いただきました通り、素案P30以降は2030年度の目標です。その旨が分かりやすくなるよう、記述を修正しました。</p> <p>ご意見を踏まえ、P30に「国の温対計画に位置付けられた省エネの内訳」を追加しました。また、ご意見を踏まえ、P35以降の「成果目標」を「削減目標」と「進捗管理指標」に分け、「進捗管理指標」の項目を追加しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 市民    |
| 97 |    | <p>&lt;p.33&gt;削減目標</p> <p>【意見】</p> <p>「2030年度までに2013年度比60％削減」は、これまでより踏み込んでいることを評価します。が、あと5年以内に1.5度目標が破られる見通しであることを考慮すると、本気かつ現実的に1.5度目標を達成するためには、IPCCやIEAの提言を踏まえ、日本は最低でも2030年に2013年比70％以上の削減が必要になります。しかもこれから確実に起こる気候災害は、過去に排出された温室効果ガスによって引き起こされるものであり、これまでエネルギーを大量消費して温室効果ガスを排出してきた先進国の責任を考慮すると、60％削減（しかも1999年や2000年でなくピークの2013年比）というのは、低すぎます。目標数値をさらに高めるか、2050年ではなく2030年に向けて「さらなる高み」を目指してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>この間、市民・事業者のみなさまからお寄せいただいたご意見を基に積み上げた削減目標値であるため、目標値については現状の通りとさせていただきます。その上で、計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 市民    |

| No  | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                              | 意見発出者 |
|-----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 98  | 2章 | <p>&lt;p.35&gt; 4-1. 基本施策1:省エネルギー活動の促進</p> <p>【意見】</p> <p>まずは徹底的な省エネ（エネルギー利用料の削減）を進めるはずが、施策の基本的方向が情報発信と意識啓発に留まっているのは、大変残念です。単なるモラルやライフスタイルの問題にすると、「がんばったけどダメでした」との結果になることが目に見えています。しかも意識啓発では人々の大半は動きません。科学的に具体的に温室効果ガス削減を進めていくために、省エネにおいても、基本的方向の中に、「助成（公費投入）による誘導」と「義務化（まちづくり条例など）による規制」を明記すべきです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 国立市域全体の温室効果ガスを削減するためには、市民・事業者の理解と協力が不可欠であると考えています。情報発信と意識啓発を中心としつつ、「助成（公費投入）による誘導」等も織り交ぜて、脱炭素のための行動を促すことが重要と考えております。                                                                                                                               | 市民    |
| 99  | 2章 | <p>&lt;p.45&gt; コラム ー住宅等での太陽光発電ポテンシャルの確認方法ー</p> <p>【意見】</p> <p>クール・ネット東京の「東京ソーラー屋根台帳」（ポテンシャルマップ）では、太陽光発電の発電量だけでなく太陽熱利用の集熱量についても確認できます。太陽熱利用は、太陽光発電よりも安価でエネルギー利用効率は良いです。太陽熱利用ポテンシャルについても記述してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | ご意見を踏まえ、P45に内容を追加しました。                                                                                                                                                                                                                             | 市民    |
| 100 | 2章 | <p>&lt;p.35&gt; 4-1. （2）成果目標</p> <p>&lt;p.35&gt; 4-1. （2）成果目標</p> <p>&lt;p.46&gt; 4-3. （2）成果目標</p> <p>&lt;p.48&gt; 4-4. （2）成果目標</p> <p>【意見】</p> <p>基本施策1と2は「区分」「温室効果ガス削減目標量」（さらに「主な指標」項目がある）となっている一方、基本施策3と4では「指標」「2030年の目標値」となっており、アンバランスな印象を持ちます。「区分」「2030年の温室効果ガス削減目標量」として統一的な表現にした上で、その項目の中に「主な施策」に対応した「指標」「目標値」を入れてください。</p> <hr/> <p>&lt;p.46&gt; 4-3. （2）成果目標</p> <p>&lt;p.48&gt; 4-4. （2）成果目標</p> <p>【意見】</p> <p>基本施策3と4の「指標」に市民意識調査の結果が用いられているが、施策のKPI（重要業績評価指標）としては不適切です。市民意識調査の結果（「…と考える市民の割合」）のようなものは、目標値になりえません。目標値達成のために何か具体的に効果ある施策を計画的に実施できないからです。</p> <p>市民意識調査の結果でなく、具体的な（施策に対応した）指標を立ててください。例）市内の太陽光発電設備設置基数、自動車保有台数、市内バス乗降客数、保存樹木の件数、住宅改修補助件数、まちづくり条例に基づく指導件数・・・</p> | ご意見を踏まえ、P35以降の「成果目標」を「削減目標」と「進捗管理指標」に分けました。 <p>基本施策1と2は、温室効果ガスの削減という直接的な効果が見込めるのに対し、基本施策3と4は、温室効果ガスの削減に直接結びつくものではありませんが、ゼロカーボンシティに向けて取組を進めていくなかで、暮らしやビジネスに係る利便性や快適さや、市民の前向きな意識を念頭に置いたものであるため、市民・事業者の意識に関わる指標を設定しています。ご意見については、今後の参考とさせていただきます。</p> | 市民    |
| 101 | 3章 | <p>&lt;p.49&gt; 第3章 国立市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）</p> <p>【質問】</p> <p>2030年度まで時間がないため、行政には今すぐ徹底的な取組みが求められています。実行計画は2024年度スタートで今年度中は「案」に留まりますが、2023年度中の補正予算及び2024年度当初予算には、市民・事業者支援策（区域施策編）も含め積極的な財政措置がされると考えて良いですか？また、具体的規制（野心的な条例や規則、要綱や基準）についても早急に（2023年度内に）手がつけられるのでしょうか？</p> <p>【意見】</p> <p>「事務事業」は市民には馴染みのない言葉なので、「市役所編」としてはいかがでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 令和6年度当初予算編成において、本計画の推進に係る各種予算を計上していく方向で調整しております。 <p>ご意見を踏まえ、各章のタイトルについて、区域施策編は「国立市全体における温室効果ガス削減計画」、事務事業編は「市役所における温室効果ガス削減計画」、気候変動適応計画は「気候変動の影響に適応するための計画」に表記を修正しました。</p>                                                                          | 市民    |

| No  | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 意見発出者 |
|-----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 102 | 3章 | <p>&lt;p.52&gt; 2-2. 削減目標</p> <p>【意見】</p> <p>「国立市役所の率先的な取組みが求められている」と言うなら、区域施策編の事業部門の削減目標（2013年比66％減）をそのまま持ってくるのではなく、もっと高い目標数値を掲げてください。</p> <hr/> <p>&lt;p.53&gt; 対策の取組み表</p> <p>【意見】</p> <p>各年度の達成度を見える化するため（「将来に向けてがんばりましょう」で終わらせないため）に、「2023年度～2030年度の削減目標」で一括りにせず、各年度（もしくは隔年）の目標値を設定し、達成度をチェックできるようにしてください。</p> <hr/> <p>&lt;p.57&gt; （2）カーボンニュートラル都市ガスの導入推進</p> <p>【意見】</p> <p>大変唐突な印象を持ちます。そもそもカーボン・オフセットは、「お金で排出量を買う」側面があり、それ自体で温室効果ガスを減らすわけではない（化石燃料である都市ガス利用料は減らない）ので、化石燃料利用を延命することより、別の施策に限られた公金を投入すべきです。</p>                                                                                                                                              | <p>まずは区域施策編における業務部門の削減目標の達成を目指します。そして、市役所の取組を情報発信する中で、市民・事業者に脱炭素に向けた取組を促してまいります。</p> <p>進捗管理指標について、各年度ごとの目標値は定めておりませんが、2030年度に向けての進捗状況の確認は、来年度以降、適宜行っていきます。</p> <p>国立市役所が排出する温室効果ガスの約4割が都市ガス由来のものとなっております。将来的な電化という選択肢はあるにせよ、短期的に都市ガスの利用をやめることは難しいことから、カーボンニュートラル都市ガスの導入についても検討してまいります。</p> | 市民    |
| 103 | 4章 | <p>&lt;p.60&gt; 第4章 国立市の地球温暖化に対する適応策</p> <p>【意見】</p> <p>今すぐ世界がゼロカーボンを実現しても、これから何千年にもわたって、気候変動と極端な気象現象）が続いていくことを考えると、しっかりした適応策（気候危機の時代をいかに生き延びるか）づくりと市民共有は大変重要です。ところが、前の3章に比べると、記述量も内容も薄く、既存の役所の各課の事務をかき集めただけに留まっています。一旦この案を微修正して適応計画として策定した上で、最低1年かけて、市民・事業者を巻き込み、国や東京都、オール東京62市区町村共同プロジェクト、シンクタンクやコンサルの力も借りながら、しっかりした適応計画にブラッシュアップ（改定）してはいかがでしょうか。また、その際は、まずは国立市及び市民生活に気候変動が具体的にどのような影響を及ぼすのかというシミュレーションを、客観的・科学的データとともに（これこそ市民を広く巻き込んだ）ワークショップとして開催し、その結果を具体的に反映させてください。気候変動対策は市役所ぐるみ、市民ぐるみの取組みとなるので、中心で取りまとめる担当は環境政策課でなくとも構わないと思います。</p>                                                                                                                          | <p>気候変動適応策は、ご意見のとおり緩和策と併せて両輪で考えていくべき施策との考えから本計画ではその二つをまとめて策定しており、基礎自治体として取り組むべき課題を取りまとめたものです。今後、環境や地球温暖化対策に対して理解を深めていただく勉強会や講演会を実施するなかで、市民・事業者から適応計画に対する具体的なご意見などあれば、参考にしていきたいと考えております。</p>                                                                                                 | 市民    |
| 104 | 5章 | <p>&lt;p.66-67&gt; 第5章 計画の推進</p> <p>【意見】</p> <p>1～3章で力尽きたのか、第5章の記述が量・内容とも簡素で、進行管理体制がほとんど存在していない（おそらく環境政策課が全て引き受けている）のには、驚きました。そもそも市民を巻き込んだまちぐるみの緩和策と、市役所内の緩和策、同じく切実度も高い適応策についてはそれぞれで推進体制や進行管理がされるべきで、第5章でざっくりひとまとめにするのではなく、各章の中で実効的な体制を位置付けるべきです。一旦実行計画を策定した上ですぐに改定するか、2024年度が始まるまでの3ヶ月間で各施策の推進体制を確立するか、いずれにせよ、現素案のざっくりした記述でお茶を濁すことなく、早急にしっかりした体制を作ってください。</p> <p>事務事業（市役所）編は従来の計画の延長ですし、適応策は既存の施策の寄せ集めのものに留まっていますが、緩和策（区域施策編）は一刻の猶予もなく、確実に実効的な取組みをしなくてはならないので、第2章の中に入れ込み、2024年度予算で人を付けてすぐスタートできるようにしてください。区域施策編に早急に必要なのは、継続的にしっかりスーパーバイズできる外部人材を入れること、気候市民会議のような無作為抽出で市民を巻き込み続ける組織、意識を持った市民・事業者と市職員が協働して動くワーキンググループ、実行計画を作りっぱなしにせず、毎年の施策をチェックし、PDSAサイクルを回す体制です。</p> | <p>計画の推進体制については、環境政策課が事務局となり関係各課と連携していくことを想定しております。その上で、全庁的な取り組みとすべく、関係課長からなる地球温暖化対策推進部会、市長をトップとした地球温暖化対策推進本部会議で検討する体制としております。ご意見を踏まえ、第5章の内容を追加しました。</p> <p>また、外部人材、気候市民会議等については、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>                                                                                    | 市民    |
| 105 | 2章 | <p>・ p.24</p> <p>VPPについて註釈を入れていただきたいと思います。私は気になったので検索して、仮想発電所と調べて分かったのですが、おそらく計画書を読む人にとって分からない単語が多くあると書類を読み進めることを止めたり、気候変動対策が遠く感じてしまうかもしれないため、簡単に書いていただければと思います。</p> <p>・ p.35</p> <p>潜熱回収型給湯器・ヒートポンプ給湯器を（コラムでも）商品名「エコジョーズ・エコキュート」と記載してください。2つの給湯器を私は知らなかったのも、他の市民も知らないのではないかと思います。市民と事業者がそれらを知って導入することが肝だと思うので。商品名を市の計画に書いていけないのかになって疑問がありました。東京都クールネットの補助金ページにも「エコジョーズ・エコキュート」と書いてあるので問題なさそうです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>ご意見を踏まえ、本文中の表現を改めたほか、資料編の用語集に詳しい説明を記載しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                           | 市民    |

| No  | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 意見発出者 |
|-----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 106 | 2章 | <p>・ p.36</p> <p>「助成制度の検討」よりも、国と都の補助金について広報を優先することを応援します。国立市独自の単発の補助金を設けるのは、予算を引っ張ってくるのが環境政策係が大変だったり、効果が短期的に留まるのではないかと思います。それよりも、市民が利用する公共施設で高断熱の快適さを体感してもらい、太陽光パネルで施設のエネルギーを賄っていると知ることが、市民や事業者にとっての一番の広報になると思います。</p> <p>・ p.36</p> <p>「東京ゼロエミ住宅」や「高い断熱性能を導入」「断熱改修の支援」を施策に入れていることに賛同しています！</p> <p>・ p.36</p> <p>税制優遇措置について現時点でのイメージを教えてください。今までにない施策を検討していただき感謝です。国立市の財政の兼ね合いと、持続可能な対応なのか気になりました。</p> <p>・ p.36</p> <p>現状決まっている範囲で、計画書に書いてある目標（例えば2030年のエコキュート普及率など）とそれに向けた施策を対応させて表記していただきたいです。計画全体を読んでいて「どのような施策で市全体の排出を削減していくのか」と気になったので。</p> <p>・ p.36 「2030年における新築住宅の断熱性能を省エネ基準に100%」という目標は、2025年から始まる国の制度を元にしてるのでしょうか？そのことを併せて記載していただきたいです。</p> | <p>ご指摘いただきました通り、市の補助金だけで目標を達成するのは実現不可能と考えております。ただ、例えば省エネ家電買換え促進補助金のように、活用しやすい補助事業を利用いただいた際に、市民・事業者の皆さまに組みんでいただきたい内容や国・東京都の補助金情報をお伝えし、更なる行動を促すことなどについても、検討してまいります。</p> <p>税制優遇措置について、国立市単独の取組ではありませんが、省エネ改修をした住宅にかかる固定資産税の減税措置があります。国や東京都の動向も踏まえ検討してまいります。</p> <p>国立市域から排出される温室効果ガスを削減するためには、市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。そのための市の施策としては、環境教育・普及啓発、補助金による支援等が中心となると考えています。具体的な取組は、国や東京都の動向や計画の進捗状況等に応じて検討してまいります。</p> <p>「2030年における新築住宅の断熱性能を省エネ基準100%」という目標については誤記でしたので修正しました。なお、この目標は国の温対計画に基づく目標となります。一方で、2025年以降の省エネ基準への適合義務化についても周知を図るべく、追記しました。</p> | 市民    |
| 107 | 全体 | <p>国立市がCO2、62 %削減、温室効果ガス60 %以上削減という目標を実行計画素案を掲げてくださりありがとうございます。私たち子ども達の未来のために、地球環境が今より悪くならないために、気づいた大人も子供もできることを見つけて行動出来たらいいと思います。私の家は、建て替えた時に高気密高断熱にしたいと両親が思ったそうで営業さんに魔法ビンみたいな家だよと言われ、今の家に変えたら、電気代が冬は特に下がったと喜んでいます。家ではエアコン一台で過ごすことが多いです。家の中は温かいのに外に出ると寒くてびっくりすることが多いです。だけど学校はずっと寒いので、コートは教室でも脱げないです。体育館も寒いです。夏は、学校は暑くて、特に夏の更衣室と体育館が暑いです。学校も断熱すれば冬は沢山エアコンを動かさなくてよいし、夏は涼しい空気が逃げなくてよいと思いました。学校の窓の側には大きな落葉樹があれば夏は日陰を作ってくれて涼しい風が通るし、冬は葉が落ちて日差しが沢山入り教室が暖かくなると思います。北秋田市の森林だけでなく、国立市でも木を増やして欲しいです。夏に気温を上げないように日陰を作る高い木を沢山増やしても良いと思います。国立市の家やマンションの屋根をかりて、そこにソーラパネルを置かせてもらい、その電気で国立市中の施設、やお家の電気を作れば、空気も汚さず、みんなも嬉しいので、よいのではと思います。</p>                           | <p>ご指摘いただき、地球環境が今より悪くならないために、気づいた人から、できる行動を取ることが大事だと改めて思いました。市も環境教育等を充実させる必要があると思いますが、できましたら、そういったお気持ちを一人でも良いので周りの人に伝えたり、ご両親のように行動に移していただけると、社会が良い方向に進んでいくと思いますので、ご協力をお願いします。</p> <p>公共施設の断熱化や緑化、ソーラーパネルの導入についても計画の中で触れております。一度に全てを実現することは難しいですが、優先順位を付けて取り組んでまいります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                           | 市民    |
| 108 | 全体 | <p>62 %の高い目標を掲げ、実現することは国立市と国立市民にとって誇りになることだと思います。具体的目標を明確にした計画になることを期待します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <p>計画で掲げた目標を達成するためには市民・事業者のみなさまの理解と協力が不可欠です。ゼロカーボンシティの実現に向け、是非一緒に取り組んでください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 市外    |
| 109 | 1章 | <p>・ 目標を全国でトップレベルの目標に早く近づくために、計画書の冒頭が市報とかで「最悪の温度上昇シナリオを回避できる可能性がまだ残されていること」を明記していただければありがたいです（参考：国立環境研究所によるIPCC第6次報告和訳より）。</p> <p>理由：いま気候変動対策を諦めそうになっていたり、懐疑的な人、これからの気候を心配になっている人に対して、正確な最新の情報を伝える機会が増えてほしいと思うためです。本来、政府やマスメディアが報じるべきかと思うのですが、まだ日本では気候変動について報じられることが海外に比べてとても少ないです。なので、気候変動対策を国立市で着実に進めるためにも、市役所から市からも「まだ残された時間がある。削減行動には意味がある。これからの悪化を和らげる」というような文や、最新の科学的情報を計画に書いていただけたら助かります。</p> <p>・ バリ協定のページに、グラスゴー合意「1.5度目標追求」と、COP28での合意「化石燃料からの脱却」を書いていただきたいです。</p>                                                                                                                                                                           | <p>ご意見を踏まえ、P5にCOP26で1.5度に抑える努力を追求する旨の合意がなされたことと、COP28で化石燃料からの脱却を進める旨が合意されたことを追記しました。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 市民    |
| 110 | 2章 | <p>・ p.37 市の追加的施策「新築住宅、既存住宅をZEH基準等級5に誘導」することに賛同します。ただ、それでは2050年ゼロカーボン実現するために足りない、合理的でないと思うので、ぜひ「新築 断熱等級6」を市から勧めてください。</p> <p>・ p.37「新築住宅の28%」は、市内の2024~2030年までに建てられる新築住宅のうちの28%が等級5以上になるということでしょうか</p> <p>・ 36,37ページ(他も)「省エネ基準を満たす住宅ストック」「新築住宅」「既存住宅」は、全て戸建てと集合住宅の両方を含むでしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | <p>断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。</p> <p>素案p.37「新築住宅の28%」は、今後建築される新築住宅の28%をZEH基準に誘導するという意味合いになります。また、p36、37「省エネ基準を満たす住宅ストック」、「新築住宅」、「既存住宅」については、ご指摘の通り戸建てと集合住宅を含みます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 市民    |

| No  | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 市の考え方                                                                                                                              | 意見発出者 |
|-----|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 111 | 2章 | <p>・ p.36</p> <p>「事務所のZEB化の促進」は、大賛成です。どのような具体的施策を想定されているでしょうか。ZEBを増やしていくために、事業者が使える国・都の補助金を、まちづくり課などの部署とも共有していけるといいと思います。</p> <p>・ p.36</p> <p>「事業者との連携によるZEHや熱エネルギー活用の促進」という施策、とても良いと思います！ぜひ商工会の建設部門の方や、場合によって立川にある多摩建設始動事務所と協力していただければと思います。</p> <p>・省エネ機器の導入を進めるために、事業者さんたちと連携、省エネ最高レベルを説明してもらい取り組みをしてほしいです。家庭部門での省エネ家電の導入は、市民が「寿命きたな」と思って販売店（や修理屋さん）に行った時に省エネレベルがそこそこなものを買うよりも、トップレベルな家電を買う方（初期コストを払える人に限りますが）が、国立市の家庭での無理のない削減になると思います。</p>                                                                                                        | <p>ZEB促進のための施策としては、市の補助制度の充実、国や都の補助制度の情報発信、市民や事業者からの相談に対応する体制の構築等を想定しております。</p> <p>ご意見いただきました、他部署・他組織との連携については、今後の課題と認識しております。</p> | 市民    |
| 112 | 2章 | <p>・ 33ページ</p> <p>2030年エネルギー起源CO2排出削減目標62%を掲げてくださったことについて、これに至るまでに関わられた全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。国立市がこの目標を掲げることで、全国の他の自治体で気候変動対策に携わられている全ての方が、自分の自治体でもやろう、と後に続くことができると思います。本当に希望を感じます。ぜひ実現してください。応援しています！</p> <p>・ 35ページ</p> <p>「ZEH等省エネ性能の高い住宅の新築・改修」の普及を進めるとされていますが、「ZEH」ですと、日本の定義では断熱等級5相当です。独自に高断熱住宅普及策を進めている鳥取県では、断熱等級6以上の基準として定めています。ぜひ、市の追加的施策として、新築住宅において断熱等級6以上の普及を進めてください。</p>                                                                                                                                                                       | <p>断熱等級の項目については、市民アンケート結果における意向を踏まえて設定したものととなります。いただいたご意見は、市域内における建築物断熱化の推進にあたり参考とさせていただきます。</p>                                   | 市外    |
| 113 | 2章 | <p>p35</p> <p>「(1)施策の基本的方向」に賛同するとともに、下線部分の追記を提案します。</p> <p>「生活にもやさしい省エネに市民や事業者が取り組めるよう、<u>自発的な行動変容につながる学校教育や情報発信を行うとともに、</u>」</p> <p>&lt;賛同と追記理由&gt; 省エネ活動は重要な課題であり、省エネ活動を進めるためには、市民の自発的な行動変容を促すことが必要だと考えます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>ご意見を踏まえ、P35の文章を修正しました。</p>                                                                                                      | 市外    |
| 114 | 2章 | <p>p36</p> <p>「(3)主要施策」に賛同するとともに、下線部分の追記を提案します。</p> <p>「<b>●</b>住宅における高効率設備機器や省エネ型の電気・<u>ガス</u>機器の導入を促進するための情報発信及び、」</p> <p>&lt;賛同と追記理由&gt; 地球温暖化対策において、住宅・事業所における高効率・省エネ型のエネルギー設備導入促進は重要な施策であり、高効率・省エネに加えレジリエンス性も高い停電対応型GHPや発電機能付き家庭用燃料電池等のガス機器導入検討も重要と考えます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>ご意見を踏まえ、文章を修正しました。</p>                                                                                                          | 市外    |
| 115 | 2章 | <p>p48</p> <p>「（１）施策の方向性」に賛同するとともに、下線部分の追記を提案します。</p> <p>「このため、環境教育・普及啓発、民間団体の活動支援や、エネルギーマネジメントの構築に向けた仕組みづくりの<u>他、脱炭素エネルギーの普及につとめます。</u>」</p> <p>&lt;賛同と追記理由&gt;</p> <p>メタネーション技術を活用して作られた合成メタン（e-メタン）は、CO2をリサイクルし増やさないネットゼロの脱炭素エネルギーであるだけでなく、現在の都市ガスと同じ成分であるため既存のインフラ・設備をそのまま利用可能というメリットがあり、ゼロカーボンシティ実現に向けた取り組みに、貢献できるものと考えます。</p> <p>「メタネーション」とは、水素とCO2から都市ガス原料の主成分であるメタンを合成することを言います。また、メタネーションによって合成したメタンを「カーボンニュートラルメタン」もしくは「合成メタン」と呼びます。カーボンニュートラルメタンの利用（燃焼）によって排出されるCO2と回収されたCO2がオフセット（相殺）されるため、カーボンニュートラルメタンの利用では大気中のCO2は増加しません。＜出典：日本ガス協会＞</p> | <p>ご意見については、基本施策2で扱うこととし、P44の記述を修正しました。</p>                                                                                        | 市外    |

| No  | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 市の考え方                                                                                                                                                       | 意見発出者 |
|-----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 116 | 2章 | <p>p48</p> <p>次世代エネルギーの紹介として、メタネーション技術のコラム掲載を提案します。</p> <p>コラム　メタネーションとはー</p> <p>メタネーションとは、水素とCO2から都市ガス原料の主成分であるメタンを合成することを言います。また、メタネーションによって合成したメタンを「カーボンニュートラルメタン」もしくは「合成メタン」と呼びます。カーボンニュートラルメタンの利用（燃焼）によって排出されるCO2と回収されたCO2がオフセット（相殺）されるため、カーボンニュートラルメタンの利用では大気中のCO2は増加しません。メタネーションにより合成されるメタンは、都市ガス導管等の既存インフラ・既存設備を有効活用でき、社会コストの抑制が可能であり、効率的な脱炭素化手段として大きなポテンシャルがあります。</p> <p>&lt;掲載提案理由&gt;</p> <p>具体的に検証が進められているメタネーション技術による「合成メタン（e-methane）」利活用について、分かりやすく解説した説明図を掲載することで、実現可能な脱炭素化の参考となると考えます。（出所：一般財団法人　日本ガス協会ウェブサイト）<a href="https://www.gas.or.jp/gastainable/methanation/">https://www.gas.or.jp/gastainable/methanation/</a></p>                                                                                       | <p>ご意見を踏まえ、P47に、メタネーションも含めた、多様な再生可能エネルギーとガスの脱炭素化に関するコラムを追加しました。</p>                                                                                         | 市外    |
| 117 | 4章 | <p>p63</p> <p>「■非常時の電源確保の促進」に賛同するとともに、下線部分の追記を提案します。</p> <p>太陽光発電と蓄電池など自家消費型の再生可能エネルギー発電、<u>家庭用燃料電池、コージェネレーションシステムや停電対応型空調機（自立分散型エネルギー設備）</u>等の普及を図り、地域防災力の向上につなげます。</p> <p>&lt;賛同と追記理由&gt;</p> <p>災害による大規模停電発生時の災害対策本部等、災害対応拠点の機能確保と、72時間を超える停電に対する備えとして、エネルギーの自立化・多重化が有効であることから、都市ガスコージェネレーションシステムなどの自立分散型エネルギー設備によるエネルギーの確保を取組方針に盛り込むことは重要と考えます。また、災害時のみならず、通常時においても活用できる高効率なコージェネレーションシステムによる分散型エネルギーの普及拡大への取り組みは、安定したエネルギーの確保と地球温暖化対策とを両立できる取り組みとして有効であると考えております。防災・減災対策との横断的連携により推進する施策については、フェーズフリー※の考え方を含む多角的な視点から検討するなど柔軟な考えを取り入れていく必要があります。</p> <p>本年9月、貴市総合防災計画（修正案）に対するパブリックコメントにおいても、第2部減災計画第5章に本意見を追記提案をさせて頂いております。</p> <p>※フェーズフリーフェーズフリーとは、身のまわりにあるモノやサービスを、平常時はもちろん、非常時にも役立てることができるという考え方。（一般社団法人フェーズフリー協会HPより）</p> | <p>ご意見を踏まえ、P65の記述を「太陽光発電と蓄電池など自家消費型の再生可能エネルギー発電、家庭用燃料電池等の普及を図り、地域防災力の向上につなげます。」と修正しました。</p>                                                                 | 市外    |
| 118 | 全体 | <p>総体として</p> <p>この計画案が「実行」の文字を挿入しない国立市地球温暖化対策計画ならば、それなりにまとまっていると思う。しかし、実行計画と呼称するならば実行計画としての要件を満たしておらず、次段階で更に具体的な実施計画を策定する前提ならまだしも、そうでないなら不十分である。計画策定に当たっては、基本方針があり、それを受けた基本計画、計画を立てた後、具体性を持たせた実行計画を作るのが手順である。長期にわたる実行計画では短期目標、中期目標、長期目標を設定し、途中成果を評価検証して計画修正を行う手法を内包する必要がある。また、基本方針の策定段階で関係部署との合意形成は不可欠である。実行計画としての要件とは、総体は当然であるが、個別施策ごとのタイムスケジュール、数値目標、予定経費、想定財源、施行部署主体が明示されていることである。本案ではこれらが欠けている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>各施策ごとに温室効果ガス削減目標量と進捗管理指標を設定しております。進捗管理指標について、各年度ごとの目標値は定めておりませんが、2030年度に向けての進捗状況の確認は、来年度以降、適宜行っていきます。計画の進捗を管理するなかで、課題を洗い出し、必要な取組に優先順位を付けて予算化してまいります。</p> | 市民    |
| 119 |    | <p>合意形成について</p> <p>どのような施策であれ、単一目的ではなく複合目的を有する事業が多数である。温暖化対策も施設整備、都市計画、緑化対策、教育などの既存事業計画に、運用面を含めて反映させることになる。本案では各既存計画との整合性を図るとしているが、基本方針が市長、財務部署、事業執行部署、市議会等、全庁的に共通認識されていることを明確に示し、個々の事業実施に当たっての合意形成手法を掲げるべきである。例えば、庁舎や校舎の屋上緑化と太陽光発電パネルの設置をどのように整合させるかは、論理を立てて合意形成しなければ事業が円滑に進まない。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <p>計画の策定にあたっては、全庁的な取り組みとすべく、関係課長からなる地球温暖化対策推進部会で議論をしたうえで、市長をトップとした地球温暖化対策推進本部会議で内容を確認しております。計画の推進にあっても、地球温暖化対策推進本部会議に進捗状況を報告し、必要な施策を実施していくことを予定しております。</p>  | 市民    |

| No  | 章  | 意見の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 市の考え方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 意見発出者 |
|-----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 120 |    | <p>2030年、2050年目標</p> <p>実行計画であるなら、2030年目標が中期目標、2050年目標が長期目標となり、2030年目標は7ヶ年計画となる。長期目標は本案にあるように2050年にあって欲しい姿を想定することで足りるが、中期目標は個別事業ごとに7ヶ年の各年度で何を行い年度毎の到達目標値を計画するべきである。当然に予定経費、想定財源、施行部署主体を明確にしておく必要がある。短期目標は来年度、再来年度に実施する事業で達成するものであり、少なくとも年末の現時点では来年度の予定事業について、市長、財務部署、事業執行部署と具体的な調整合意ができていなければならない。これらを本計画案に盛り込むべきである。</p> <p>予定経費、想定財源について</p> <p>本計画案には予定経費、想定財源についての記述が殆どない。これでは事業計画の妥当性、是非について判断するのは不可能である。市が実施する事業については想定しているはずであり、計画書に明示するべきである。予定経費は当初経費、維持経費、廃止経費を、それぞれの発生時期を示し、総経費が理解できることが肝要である。</p>                                                                                                                                                         | <p>各施策ごとに温室効果ガス削減目標量と進捗管理指標を設定しております。進捗管理指標について、各年度ごとの目標値は定めておりませんが、2030年度に向けての進捗状況の確認は、来年度以降、適宜行っていくます。計画の進捗を管理するなかで、課題を洗い出し、必要な取組に優先順位を付けて予算化してまいります。</p>                                                                                                                                                                                 | 市民    |
| 121 | 3章 | <p>市庁舎へのクリーン電気導入</p> <p>再生可能エネルギーによる発電電力の利用促進は図るべきであるが、既存商用電力とは価格差があることを示して、市民の理解を得ておく必要がある。</p> <p>P44にある多摩川クリーンセンター発電電力の利用については、国立市での使用に捉われず、ごみの発生量の季節変動に対処し、年間を通じて発電機のフル稼働が可能となる施策を講じることで再生可能エネルギーによる発電電力の増加に資するもの、一部事務組合の構成市としての役割である。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | <p>再生可能エネルギー電力の調達にあたっては、他の施策の進捗や費用対効果等についても勘案する中で、更なる導入についても検討してまいります。</p> <p>クリーンセンター多摩川では、安全で計画的な運営を行っており、安定的かつ効率的なごみ焼却及び発電を行っていると認識しております。</p>                                                                                                                                                                                           | 市民    |
| 122 | 2章 | <p>太陽光発電普及 (P54)</p> <p>国立市は南面する多摩川の河岸段丘上にあり、道路も東西に向かう直線道路が多数であって、太陽光発電に対し有利な地形をもっている。市街地での太陽光発電には小規模発電、蓄電、コスト、廃棄など様々な課題はあるが、塵も積もれば山となる誓えのとおり、普及すれば大きな力になりえる。市が率先して取り組むべきであるが、国立市に於ける市や民間の既存の太陽光発電パネルの運用実績の検証が十分になされていない。調査検証から始めて、太陽光発電普及計画を立てるべきである。</p> <p>緑化</p> <p>国立市には新たな林を造成する余地がないというのが疑問である。国立市の小中学校は比較的広い敷地を有している。少子化もあって校舎の一部取り壊しなどもある。校庭の一角に500～750㎡の雑木林や竹藪を造成することは可能である。校庭を体育系部活だけでなく、文化系部活の場として設計できる。緑化はするだけでなく、維持管理が重要である。市役所玄関周りコンクリート製大型プランターには雑草が生い茂っている。これでは緑化推進に取り組んでいる国立市の印象が悪い。本計画案にも樹木の維持管理について言及が乏しい。</p> <p>E V 車導入 (P58)</p> <p>現在の庁有車の車種別台数、用途を明示し、少なくとも来年度のE V 車導入の内訳は記載できるはずである。既に運用しているE V 庁有車があるなら、その運用実績の評価結果を示し、導入計画の根拠とすべきである。</p> | <p>市内における再生可能エネルギーについては、ご指摘の通り、太陽光発電が中心となると考えております。市が設置している太陽光発電設備の発電量等のデータを公表することも検討してまいります。</p> <p>学校敷地の活用については、より良い学習環境の整備の観点から検討するものと考えております。「みどり」をどのように維持管理していくかについては、ご指摘の通り、重要な課題と考えております。いただいたご意見については、庁内で共有させていただきます。</p> <p>代替可能な電動車がない場合等を除き、新規導入・更新する庁用車については原則電動車とします。各年度に更新する庁用車については、購入後の経過年数、走行距離、不具合の状況等を考慮して決定してまいります。</p> | 市民    |